



資料・データ編

Data



生物資源に関する方針

キリングroupでは、環境問題や人権問題に結びつく可能性の高い生物資源について、早い時期から取り組みを進めてきました。

2010年に「生物多様性保全宣言」を策定したのちに、2013年に「キリングroup持続可能な生物資源調達ガイドライン」を策定し、特に重要な調達品として「紅茶葉」「紙・印刷物」「パーム

油」を特定して「キリングgroup持続可能な生物資源利用行動計画」を策定して取り組みを進めてきました。2017年2月に「キリングgroup CSVコミットメント」を策定・発表したのを受けて「キリングgroup持続可能な生物資源利用行動計画」を改定して取り組みを加速させています。

キリングgroup生物多様性保全宣言

キリングgroupは、自然の恵みを原料に、自然の力と知恵を活用して事業活動を行っており、生物多様性の保全は重要な経営課題であると認識しています。将来に渡って「食と健康」の新たなよこびを提供し続けるために、キリングgroupは、生物多様性保全のための様々な活動を積極的に行います。

1. 生物多様性に配慮した資源利用を推進します

世界中の人々が自然の恵みを持続的に享受できるように、生物多様性に配慮した資源の利用を事業活動全体において推進します。

2. キリングgroupの持つ技術を活かします

「食と健康」の新たなよこびを提供する企業として、事業活動を通じて保有する技術の応用により、生物多様性の持続可能な利用および保全に貢献します。

3. ステークホルダーと連携して取り組みます

従来より取り組んでいる環境保全活動に生物多様性の視点を加え、お客様や地域のパートナーと連携し、生物多様性保全に継続して取り組みます。

4. 条約や法令に適切に対応します

生物多様性に係わる条約や法令を遵守し、生物多様性の恵みが世界中で活かせるように努力します。

キリングgroup持続可能な生物資源調達ガイドライン

■ 目的

「キリングgroup生物多様性保全宣言」に基づき、「生物資源の持続可能な調達」を続けるために、基本的な考え方を示します。

■ 適用範囲

キリングgroupが日本国内で調達する生物資源において、リスク評価により森林の違法伐採や環境破壊等のリスクを伴うと判断した特定のものについて適用します。

■ 持続可能な生物資源調達ガイドライン

キリングgroupは、対象とすると決めた生物資源について以下の原則のもとに調達を実施します。

1. 違法に森林を伐採して造成されたプランテーション、もしくは植林地に由来する原料ではないこと、また伐採にあたって原木生産地の法令を守り、適切な手続きで生産されたものであることが確認されたもの
2. 信頼できる第三者によって認証された農園・森林等に由来するもの
3. 環境破壊などを行なっていると判断されている事業者が生産したものではないもの*

■ 実施と運用に関して

左記のガイドラインは、生物資源が抱える課題や地域による調達事情がそれぞれ異なることを考慮して、調達する産物の生物多様性上のリスクの評価にもとづいて定期的に見直しを行うとともに、各国または地域の特性を勘案し、別途行動計画を定めて段階的に実施することとします。

取り組みにあたっては、サプライヤーおよび専門家・NGOなどのステークホルダーと協力し、原料生産地で働く人々が生物資源の持続性を考慮した生産へ移行する支援も考慮しながら、長期的視点で取り組みを進めます。

■ 情報公開と外部コミュニケーション

取り組みの進捗状況は、サステナビリティレポートやWeb等を通じて、透明性を確保しながら公開するとともに、適切な外部コミュニケーションにより持続可能な生物資源の利用に向けたお客様やパートナー・社会の理解を促進します。

* 現在のところFSCのPolicy for the Association of Organization with FSCを参照とします。

プラスチックに関する方針

キリングループ プラスチックポリシー

1. PETボトルの資源循環を推進します。

キリングループが提供しているプラスチック容器包装等のほとんどは飲料ボトル用PET樹脂が占めており、その一部にリサイクル樹脂を使用しています。キリングループは、PETボトルの資源循環を推進するため、日本国内におけるリサイクル樹脂の割合を2027年までに50%に高めることを目指します。

また、PETボトルの資源循環を推進するためには、良質な使用済PETボトルを効率的に回収することが不可欠です。キリングループでは、国や地域、業界団体等と協働しながら、良質な使用済PETボトルの効率的な回収・利用システムの構築を積極的に進めていきます。

2. ワンウェイプラスチック*の削減および他の素材への代替に努めます。

プラスチックごみの多くは、ワンウェイプラスチックと言われています。キリングループは、グループ各社が提供するワンウェイプラスチックの削減に努めるとともに、他の素材への代替にも取り組んでいきます。

※ 再使用を前提としない、一度だけしか使われない使い捨てのプラスチック

3. PETボトル原料の持続性向上を目指します。

キリングループでは、これまででも環境負荷軽減の観点からPETボトルの軽量化を継続的に進めてきました。今後もより一層の軽量化を目指していきます。

また、PETボトル原料の持続性向上のため、石油資源からの脱却に向けた非可食性植物由来のPETボトル樹脂導入の検討も進めていきます。

上記に加え、プラスチックの資源循環を推進していくための啓発活動や海岸清掃活動等へも積極的に参画していきます。また、キリンビバレッジでは、一般社団法人 全国清涼飲料連合会が昨年発表した「清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言2018」に賛同し、「2030年までにPETボトルの100%有効利用」の実現に向けて、業界を挙げて取り組んでいきます。

2019年2月策定

キリングループ持続可能な生物資源利用行動計画

1. 紅茶

キリン株式会社にて、以下の3段階のステップで調査を行い、毎年レビューを行いながら、持続可能性のレベルを向上させていきます。

- Step.1 購入先の紅茶農園を特定します。
- Step.2 特定した紅茶農園の持続可能性^{※1}を評価します。
- Step.3 持続可能性の高い紅茶農園の茶葉使用を目指します。

2. 紙・印刷物

キリン株式会社、キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社、メルシャン株式会社にて、**事務用紙^{※2}**

2020年末までに、FSC[®]認証を受けた紙、または古紙を使用した紙100%使用を目指します。

容器包装資材^{※3※4}

- 1) 6缶パック：2017年末までに、FSC認証を受けた紙100%使用を目指します。
- 2) ギフト箱：2020年末までに、FSC認証を受けた紙100%使用を目指します。
- 3) 紙パック：2020年末までに、FSC認証を受けた紙100%使用を目指します。
- 4) 製品用段ボール箱：2020年末までに、FSC認証を受けた紙100%使用を目指します。

その他

FSC認証を受けた紙、FSC管理木材を原料とした紙、古紙を使用した紙、または環境面で保護価値の高い森林を破壊していない^{※5}ことを調達先へのアンケート等によって確認した紙を優先的に使用します。

3. パーム油^{※6}

国内事業会社にて、一次原材料および二次原材料として使用しているパーム油についてRSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil、持続可能なパーム油のための円卓会議) によって承認されている認証証明取引プログラムであるBook and Claim方式を利用して対応します。

なお、パーム油の生産農園の特定や、充分な量のRSPO認証パーム油が直接購入可能となった場合には、別途レベルアップした行動計画を策定することとします。

※1 Step.2における紅茶の持続可能性は、レインフォレスト・アライアンス認証の取得状況で評価します。
 ※2 事務用紙とは、コピー用紙、封筒（定型外・一部の業務用を除く）、名刺、および会社案内等の印刷物とします。
 ※3 対象企業にはキリン・トロピカーナ株式会社を含みます。
 ※4 限定商品、少量品種、特殊な形状、輸入品等を除きます。
 ※5 High Conservation Value Forest: HCVF と呼ばれるもので、FSCの定義によるものとします。
 ※6 パーム油とは、アブラヤシ果肉から得られるパーム油およびその種子から得られるパーム核油を含みます。

2013年2月策定 2017年2月改定

キリングループ遺伝資源アクセス管理原則

- 1. 生物多様性に関する国際的な合意を尊重する。
- 2. 遺伝資源へのアクセスは資源提供国の事前同意を得て行い、来歴不明の遺伝資源の持ち込み及びその利用は、行わない。
- 3. 遺伝資源の利用は、これより生ずる利益の公正かつ衡平な配分を含め、国際条約に従い適切に管理する。

商品開発での環境配慮

環境に配慮した容器包装などの設計

資源の保全と環境負荷低減への取り組みをより推進するために、「環境に配慮した容器包装等設計基本方針」を定め、さらに使用してよい材料やその組み合わせまで細かく規定した「環境に配慮した容器包装等設計指針」を制定して運用しています。1998年にキリンビールで制定して運用してきましたが、2014年からは対象を日本の酒類事業・飲料事業全体に、2019年からは医薬事業を除く国内キリングループ各社に拡大しています。

容器のLCAへの取り組み

キリングループでは、酒類や清涼飲料などの主要な容器については、適宜LCA（ライフサイクルアセスメント）を実施し、商品の特性、お客様の1回当たりの購入単位、主な販売店の形態、空容器回収の見込みなども総合的に考えたうえで、容器を選択しています。

環境に配慮した容器包装等設計基本方針

1. 目的

地球の豊かなめぐみと環境を持続的なたちで将来につなぎ、お客様と社会全体に価値を提供し続けるために、法令ならびに「環境に配慮した容器包装等設計指針」を遵守することにより、配慮した商品開発ならびに営業活動における廃棄物の削減およびリサイクルの推進を通し、バリューチェーンから生じる環境負荷を地球が賄うことができる能力とバランスさせる「資源循環100%社会の実現」を目指す。

2. 容器包装の開発・設計・採用の基本的考え方

- (1) 開発・設計に当たっては、内容物の品質保持、安全衛生と容器包装自体の安全性、製品情報の適正表示を前提に、環境適性、お客様の使いやすさ、輸送効率ならびに経済性を考慮する。
- (2) 採用に当たっては、さらにお客様の購入・飲用形態、販売形態および内容物の特性に応じたものを選択する。

3. 容器包装の開発・設計・採用に当たっての環境配慮の考え方

- (1) 調達からリサイクルまでの容器包装のライフサイクル全体での環境負荷低減を図り、自然環境への影響を最小限に抑える。
- (2) 資源有効利用、循環型社会の実現に寄与するために、リサイクルや廃棄が容易で、環境負荷の少ない素材を使用する。
- (3) 低炭素社会の実現に寄与するために、容器包装製造および商品輸送工程でのエネルギー使用量および温室効果ガス発生量の少ない素材を選定する。
- (4) 廃棄処理時の環境汚染防止に配慮した素材を選定する。
- (5) 3R（発生抑制・再使用・再生利用）は、次項に従って推進する。

4. 3R（発生抑制・再使用・再生利用）推進の指針

- (1) 発生抑制（Reduce）
 1. 容器包装及び販売促進用ツール等の軽量化に努め、材料の使用量の低減に努める。
 2. リサイクル時や廃棄時に、折りたたみ、押しつぶし等により、できるだけ体積が小さくなるように減容化に努める。
 3. 簡易包装への切り替え、個別包装・外装の省略を推進し、包装の適正化に努める。
- (2) 再使用（Reuse）
 1. 再使用および再充填の回数ができるだけ多くなるように努める。
 2. 再使用および再充填に係る環境負荷ができるだけ少なくなるように努める。
- (3) 再生利用（Recycle）
 1. できるだけ単一素材を使用し、2種以上の素材を使用する場合は、容易に分離が可能となるように努める。
 2. 再生された素材および再生品使用比率の高い素材を使用するように努める。
 3. 分別排出、分別収集、選別を容易にする仕様・デザインに努める。

2014年11月18日改定

環境データ算定方法

(1) 使用係数

エネルギー使用量の換算係数

| | 国内 | 海外 | |
|----|--|------|---|
| 燃料 | 「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」係数 | ライオン | ・Australia - National Greenhouse Account Factors ・New Zealand - Measuring Emissions: A Guide for Organisations |
| | | 上記以外 | 「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」係数 |
| 電力 | IEA (International Energy Agency: 国際エネルギー機関) などが用いている3.6(MJ/kWh)を使用。 | | |

GHG排出量の排出係数

| | 国内 | 海外 | |
|----|---|------|---|
| 燃料 | 「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」(環境省・経済産業省)係数 | ライオン | ・Australia - National Greenhouse Account Factors ・New Zealand - Measuring Emissions: A Guide for Organisations |
| | | 上記以外 | 「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」(環境省・経済産業省)係数 |
| 電力 | ・各電力事業者が広報する排出係数 →ない場合は、当該年のIEA [CO2 Emissions from Fuel Combustion] より国別の排出係数 | | |

(2) 集計範囲

グループ全体

| 事業 | 会社 |
|---------------|---|
| 国内ビール・スピリッツ事業 | キリンビール、キリンディスティラリー、スプリングバレーブルワリー、永昌源、麒麟啤酒(珠海)有限公司 |
| 国内飲料事業 | キリンビバレッジ、信州ビバレッジ、北海道キリンビバレッジ、キリンメンテナンス・サービス、キリンビバレッジサービス各社(北海道、仙台、東京、中部、関西)、函館ダイイチベンディング、キリンビバックス、東海ビバレッジサービス |
| オセアニア総合飲料事業 | ライオン |
| 医薬事業 | 協和キリン、協和キリンフロンティア、協和メディカルプロモーション、協和キリンプラス、協和発酵麒麟(中国)製薬有限公司、Kyowa Kirin Pharmaceutical Research |
| その他事業(全社を含む) | メルシャン、日本リカー、第一アルコール、ワインキュレーション、マンマー・ブルワリー、インターフード、ベトナムキリンビバレッジ、AZUMA KIRIN、フォアローゼズディスティラリー、協和発酵バイオ、協和ファーマケミカル、協和エンジニアリング、BioKyowa Inc.、上海協和アミノ酸有限公司、Thai Kyowa Biotechnologies Co., Ltd.、キリンホールディングス、キリンビジネスエキスパート、キリンビジネスシステム、小岩井乳業、キリンエコー、キリンアンドコミュニケーションズ、キリンエンジニアリング、キリンシティ、キリンテクノシステム、キリングループロジスティクス |

事業別集計内訳

上記「グループ全体」集計範囲の表を参照。

地域別集計内訳

| 地域 | 会社 |
|-------|--|
| 日本 | キリンビール、キリンディスティラリー、スプリングバレーブルワリー、永昌源、キリンビバレッジ、信州ビバレッジ、北海道キリンビバレッジ、キリンメンテナンス・サービス、キリンビバレッジサービス各社(北海道、仙台、東京、中部、関西)、函館ダイイチベンディング、キリンビバックス、東海ビバレッジサービス、協和キリン、協和キリンフロンティア、協和メディカルプロモーション、協和キリンプラス、協和発酵バイオ、協和ファーマケミカル、協和エンジニアリング、小岩井乳業、キリンエコー、キリンアンドコミュニケーションズ、キリンエンジニアリング、キリンシティ、キリンテクノシステム、キリングループロジスティクス、メルシャン、日本リカー、第一アルコール、ワインキュレーション、キリンホールディングス、キリンビジネスエキスパート、キリンビジネスシステム |
| オセアニア | ライオン |
| 東南アジア | マンマー・ブルワリー、インターフード、ベトナムキリンビバレッジ、Thai Kyowa Biotechnologies Co., Ltd. |
| その他 | 協和発酵麒麟(中国)製薬有限公司、Kyowa Kirin Pharmaceutical Research、BioKyowa Inc.、上海協和アミノ酸有限公司、麒麟啤酒(珠海)有限公司、フォアローゼズディスティラリー、AZUMA KIRIN |

過去の報告対象組織の範囲

| | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
|---------------|--|---|---|---|
| 国内ビール・スピリッツ事業 | キリンビール キリンビールマーケティング キリンディスティラリー スプリングパレーブルワリー 永昌源 麒麟啤酒(珠海)有限公司 | キリンビール キリンビールマーケティング キリンディスティラリー スプリングパレーブルワリー 永昌源 麒麟啤酒(珠海)有限公司 | キリンビール キリンディスティラリー スプリングパレーブルワリー 永昌源 麒麟啤酒(珠海)有限公司 | キリンビール キリンディスティラリー スプリングパレーブルワリー 永昌源 麒麟啤酒(珠海)有限公司 |
| 国内飲料事業 | キリンビブレ 信州ビブレ キリンチルドビブレ キリンビブレパリュベンド 北海道キリンビブレ キリンメンテナス・サービス キリン・トロピカーナ キリンビブレサービス各社 (北海道、仙台、東京、中部) 函館ダイイチベンディング キリンビバックス | キリンビブレ 信州ビブレ キリンチルドビブレ キリンビブレパリュベンド 北海道キリンビブレ キリンメンテナス・サービス キリン・トロピカーナ キリンビブレサービス各社 (北海道、仙台、東京、中部、関西) 函館ダイイチベンディング キリンビバックス | キリンビブレ 信州ビブレ キリンビブレパリュベンド 北海道キリンビブレ キリンメンテナス・サービス キリン・トロピカーナ キリンビブレサービス各社 (北海道、仙台、東京、中部、関西) 函館ダイイチベンディング キリンビバックス 東海ビブレサービス | キリンビブレ 信州ビブレ キリンビブレパリュベンド 北海道キリンビブレ キリンメンテナス・サービス キリン・トロピカーナ キリンビブレサービス各社 (北海道、仙台、東京、中部、関西) 函館ダイイチベンディング キリンビバックス 東海ビブレサービス |
| オセアニア総合飲料事業 | ライオン | ライオン | ライオン | ライオン |
| 医薬事業 | 協和発酵キリン 協和発酵麒麟(中国)製薬有限公司 | 協和発酵キリン 協和発酵麒麟(中国)製薬有限公司 | 協和発酵キリン 協和発酵麒麟(中国)製薬有限公司 | 協和キリン 協和発酵麒麟(中国)製薬有限公司 |
| その他事業(全社を含む) | メルシャン 日本リカー 第一アルコール ワインキュレーション ミャンマー・ブルワリー インターフード ベトナムキリンビブレ 東山農産加工有限公司 協和発酵バイオ 協和ファーマケミカル BioKyowa Inc. 上海協和アミノ酸有限公司 キリンホールディングス キリン キリンビジネスエキスパート キリンビジネスシステム 小岩井乳業 横浜アリーナ キリンエコー キリンアンドコミュニケーションズ キリンエンジニアリング キリンシティ キリンテクノシステム キリングループロジスティクス キリン・ディアジオ | メルシャン 日本リカー 第一アルコール ワインキュレーション ミャンマー・ブルワリー インターフード ベトナムキリンビブレ AZUMA KIRIN フォアローゼズディスティラリー 協和発酵バイオ 協和ファーマケミカル BioKyowa Inc. 上海協和アミノ酸有限公司 Thai Kyowa Biotechnologies Co., Ltd. キリンホールディングス キリン キリンビジネスエキスパート キリンビジネスシステム 小岩井乳業 横浜アリーナ キリンエコー キリンアンドコミュニケーションズ キリンエンジニアリング キリンシティ キリンテクノシステム キリングループロジスティクス | メルシャン 日本リカー 第一アルコール ワインキュレーション ミャンマー・ブルワリー インターフード ベトナムキリンビブレ AZUMA KIRIN フォアローゼズディスティラリー 協和発酵バイオ 協和ファーマケミカル BioKyowa Inc. 上海協和アミノ酸有限公司 Thai Kyowa Biotechnologies Co., Ltd. キリンホールディングス キリン キリンビジネスエキスパート キリンビジネスシステム 小岩井乳業 キリンエコー キリンアンドコミュニケーションズ キリンエンジニアリング キリンシティ キリンテクノシステム キリングループロジスティクス | メルシャン 日本リカー 第一アルコール ワインキュレーション ミャンマー・ブルワリー インターフード ベトナムキリンビブレ AZUMA KIRIN フォアローゼズディスティラリー 協和発酵バイオ 協和ファーマケミカル BioKyowa Inc. 上海協和アミノ酸有限公司 Thai Kyowa Biotechnologies Co., Ltd. キリンホールディングス キリン キリンビジネスエキスパート キリンビジネスシステム 小岩井乳業 キリンエコー キリンアンドコミュニケーションズ キリンエンジニアリング キリンシティ キリンテクノシステム キリングループロジスティクス |

中期・長期GHG排出量削減目標に対する実績排出量の集計範囲 (Scope1、Scope2) (P.22、P.25、P.61、P.72、P.99)

| 事業 | 会社 |
|---------------|---|
| 国内ビール・スピリッツ事業 | キリンビール、キリンディスティラリー、スプリングパレーブルワリー、永昌源 |
| 国内飲料事業 | キリンビブレ、信州ビブレ、北海道キリンビブレ、キリンメンテナス・サービス、キリン・トロピカーナ、キリンビブレサービス各社(北海道、仙台、東京、中部、関西)、函館ダイイチベンディング、キリンビバックス、東海ビブレサービス |
| オセアニア総合飲料事業 | ライオン |
| 医薬事業 | 協和キリン、協和キリンフロンティア、協和メディカルプロモーション、協和キリンプラス、協和発酵麒麟(中国)製薬有限公司、Kyowa Kirin Pharmaceutical Research |
| その他事業(全社を含む) | メルシャン、日本リカー、第一アルコール、ワインキュレーション、協和発酵バイオ、協和ファーマケミカル、協和エンジニアリング、BioKyowa Inc.、上海協和アミノ酸有限公司、Thai Kyowa Biotechnologies Co., Ltd.、キリンホールディングス、キリンビジネスエキスパート、キリンビジネスシステム、小岩井乳業、キリンエコー、キリンアンドコミュニケーションズ、キリンエンジニアリング、キリンシティ、キリンテクノシステム、キリングループロジスティクス |

中期・長期GHG排出量削減目標に対する実績排出量の集計範囲 (Scope3) (P.22、P.25、P.61、P.72、P.99)

| 事業 | 会社 |
|---------------|---|
| 国内ビール・スピリッツ事業 | キリンビール、キリンディスティラリー |
| 国内飲料事業 | キリンビブレ、信州ビブレ |
| オセアニア総合飲料事業 | ライオン |
| 医薬事業 | 協和キリン、協和発酵麒麟(中国)製薬有限公司、Kyowa Kirin Pharmaceutical Research |
| その他事業(全社を含む) | メルシャン、第一アルコール、協和発酵バイオ、協和ファーマケミカル、BioKyowa Inc.、上海協和アミノ酸有限公司、Thai Kyowa Biotechnologies Co., Ltd.、キリンホールディングス、小岩井乳業、キリングループロジスティクス |

Scope3排出量の集計範囲 (P.98)

| 事業 | 会社 |
|---------------|--|
| 国内ビール・スピリッツ事業 | キリンビール、キリンディスティラリー、麒麟啤酒(珠海)有限公司 |
| 国内飲料事業 | キリンビブレ、信州ビブレ |
| オセアニア総合飲料事業 | ライオン |
| 医薬事業 | 協和キリン、協和発酵麒麟(中国)製薬有限公司、Kyowa Kirin Pharmaceutical Research |
| その他事業(全社を含む) | メルシャン、第一アルコール、ミャンマー・ブルワリー、インターフード、ベトナムキリンビブレ、協和発酵バイオ、協和ファーマケミカル、BioKyowa Inc.、上海協和アミノ酸有限公司、Thai Kyowa Biotechnologies Co., Ltd.、キリンホールディングス、小岩井乳業、キリングループロジスティクス |

水リスク評価対象事業所内訳 (P.41)

| 会社名 | 国名 | 工場数 | 備考 |
|--------------------------------------|----------|-----|---|
| 麒麟ビール | 日本 | 8 | 仙台、取手、横浜、名古屋、滋賀、神戸、岡山、福岡 ※麒麟ビバレッジ滋賀工場は麒麟ビール滋賀工場内に併設のため、麒麟ビール滋賀工場に含む |
| 麒麟ディスティラリー | 日本 | 1 | 御殿場 |
| メルシャン | 日本 | 1 | 八代 |
| 麒麟ビバレッジ | 日本 | 1 | 湘南 ※麒麟ビバレッジ滋賀工場は麒麟ビール滋賀工場内に併設のため、麒麟ビール滋賀工場に含む |
| 信州ビバレッジ | 日本 | 1 | |
| 協和麒麟 | 日本 | 2 | 高崎、富士 |
| | 中国 | 1 | 協和発酵麒麟(中国)製薬有限公司 |
| 協和発酵バイオ | 日本 | 2 | 山口事業所(防府)、山口事業所(宇部) |
| 協和ファーマケミカル | 日本 | 1 | 本社 |
| 小岩井乳業 | 日本 | 1 | 小岩井 |
| BioKyowa Inc. | アメリカ | 1 | |
| 上海協和アミノ酸有限公司 | 中国 | 1 | |
| Thai Kyowa Biotechnologies Co., Ltd. | タイ | 1 | |
| 麒麟啤酒(珠海)有限公司 | 中国 | 1 | |
| インターフード | ベトナム | 1 | |
| ベトナム麒麟ビバレッジ | ベトナム | 1 | |
| フォアローゼズディスティラリー | アメリカ | 2 | Lawrenceburg, Cox's Creek |
| ミャンマー・ブルワリー | ミャンマー | 1 | |
| ライオン | オーストラリア | 12 | Bentley Milk, Burnie, Canberra, Castlemaine Perkins Brewery, Chelsea Heights, James Boag Brewery, Little Creatures Brewery Fremantle, Morwell, Penrith, Smithfield, Tooheys Brewery, West End Brewery |
| | ニュージーランド | 3 | Palmerston North, Pride Brewery, Speights Brewery |

環境会計

環境保全コスト

(単位:百万円)

| 分類 | 具体的な内容 | 投資額 | | | 費用額 | | |
|--|-----------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 |
| 生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷抑制のための環境保全コスト(下記①②③の計) | | 1,311 | 763 | 1,243 | 5,971 | 5,499 | 5,854 |
| ①公害防止コスト | 大気汚染・水質汚濁の防止活動、大気・水質などの分析測定 | 1,093 | 533 | 536 | 3,229 | 2,477 | 2,330 |
| ②地球環境保全コスト | 太陽光発電、CO2回収、省エネルギー、コージェネレーションほか | 147 | 215 | 655 | 947 | 828 | 854 |
| ③資源循環コスト | 汚泥減量化、廃棄物再資源化、用水循環ほか | 71 | 16 | 53 | 1,795 | 2,195 | 2,669 |
| 上下流コスト | 容器包装リサイクル法再商品化委託費用 | 0 | 1 | 86 | 40 | 584 | 375 |
| 管理活動コスト | 環境マネジメントシステム運用、環境教育、事業所内緑化ほか | 15 | 13 | 35 | 305 | 319 | 300 |
| 研究開発コスト | 容器軽量化、副産物・排水等の環境負荷低減に関する研究開発 | 24 | 29 | 63 | 105 | 100 | 131 |
| 社会活動コスト | 水のめぐみを守る活動など環境保全活動費用、自然保護団体への寄付ほか | 3 | 0 | 0 | 95 | 47 | 49 |
| 環境損傷対応コスト | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| その他 | | 0 | 0 | 131 | 3 | 1 | 186 |
| 計 | | 1,353 | 806 | 1,559 | 6,520 | 6,550 | 6,895 |

経済効果

(単位:百万円)

| 項目 | 内容 | 2017年 | 2018年 | 2019年 |
|----------|--------------------|-------|-------|-------|
| 有価物等の売却額 | 廃棄物再資源化ほか | 851 | 840 | 949 |
| 資源節約効果額 | 省エネルギー、廃棄物削減、省資源ほか | 418 | 555 | 591 |

集計範囲

2017年:麒麟(麒麟ビール、麒麟ビバレッジ、他一部構成会社を含む)、協和発酵麒麟、協和メデックス、協和発酵バイオ、協和ファーマケミカル、小岩井乳業

2018年:麒麟ビール、麒麟ディスティラリー、永昌源、麒麟ビバレッジ、信州ビバレッジ、メルシャン、協和麒麟、協和発酵バイオ、協和ファーマケミカル、小岩井乳業、麒麟

2019年:麒麟ビール、麒麟ディスティラリー、永昌源、麒麟ビバレッジ、信州ビバレッジ、メルシャン、協和麒麟、協和発酵バイオ、協和ファーマケミカル、小岩井乳業、麒麟ホールディングス

マテリアルバランス

マテリアルフロー (2019年、グループ全体)

| 物質 | 単位 | 国内ビール・スピリッツ事業 | 国内飲料事業 | オセアニア 総合飲料事業 | 医薬事業 | その他事業 | 合計 | | |
|------------------------|----------------------|---------------|--------|-----------------|--------|--------|---------|---------|--------|
| | | | | | | | 2019年 | 2018年 | 2017年 |
| | | | | | | | | | |
| | 千t | 584 | 85 | 376 | 1 | 385 | 1,431 | 1,484 | 2,452 |
| | % | 41 | 6 | 26 | 0.1 | 27 | 100 | | |
| 原料 | 千t | 406 | 36 | 127 | 0.2 | 320 | 889 | 858 | 1,733 |
| 包装資材 | 千t | 178 | 49 | 249 | 0.6 | 65 | 542 | 626 | 719 |
| 水 (淡水のみ) | 千m ³ | 14,470 | 2,211 | 5,023 | 2,232 | 44,283 | 68,218 | 76,319 | 79,583 |
| | % | 21 | 3 | 7 | 3 | 65 | 100 | | |
| 水循環的利用量 | 千m ³ | 2,994 | 341 | 244 | 22,166 | 95,589 | 121,334 | 124,003 | 61,112 |
| エネルギー | TJ | 4,029 | 915 | 2,400 | 642 | 4,645 | 12,630 | 13,081 | 12,972 |
| | % | 32 | 7 | 19 | 5 | 37 | 100 | | |
| 生産量 | 千kl | 2,862 | 707 | 1,528 | 0 | 762 | 5,860 | 5,881 | 5,743 |
| 酒類・飲料 | 千t | 9 | 0 | 78 | 0.2 | 84 | 171 | 191 | 188 |
| 食品/医薬・バイオケミカル | 千m ³ | 11,949 | 1,845 | 3,996 | 2,002 | 47,596 | 67,387 | 71,747 | 73,563 |
| 排水 | % | 18 | 3 | 6 | 3 | 71 | 100 | | |
| GHG排出量 (Scope1+Scope2) | 千t-CO ₂ e | 232 | 56 | 229 | 56 | 376 | 949 | 986 | 996 |
| | % | 24 | 6 | 24 | 6 | 40 | 100 | | |
| NOx | t | 138 | 20 | 213 | 6 | 48 | 425 | 436 | 429 |
| SOx | t | 0.3 | 1 | 2 | 0 | 12 | 15 | 19 | 95 |
| | 千t | 198 | 17 | 148 | 2 | 106 | 470 | 421 | 427 |
| | % | 42 | 4 | 31 | 0.4 | 22 | 100 | | |
| 廃棄物 | 千t | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 12 | 35 |
| 場内処理量 | 千t | 196 | 17 | 139 | 2 | 102 | 455 | 402 | 378 |
| 廃棄物資源化量 | 千t | 3 | 0 | 8 | 0.1 | 2 | 12 | 8 | 14 |
| 最終処分量 | 千t | | | | | | | | |

マテリアルフロー (2019年、主要事業・会社)

| | | 日本の酒類事業・飲料事業 主要会社 | | | 医薬事業 | |
|-------------------------------------|----------------|-------------------|-------------|------------|------------|------------|
| | | キリンビール | キリンビバレッジ | メルシャン | | |
| 物質総投入量 | t | 513,865 | 47,314 | 84,225 | 719 | |
| ※リターナブル包装資材を除く | 原料 | 371,220 | 19,225 | 63,417 | 166 | |
| | 包装資材 | 142,644 | 28,089 | 20,808 | 553 | |
| 水資源総投入量 | m ³ | 12,508,854 | 967,910 | 2,825,111 | 2,231,665 | |
| | 上水 (市水) | 1,676,207 | 653,823 | 301,714 | 284,051 | |
| | 工業用水 (工水) | 10,037,654 | 0 | 0 | 1,154,800 | |
| | 河川水 | 0 | 0 | 448 | 0 | |
| | 地下水 | 794,993 | 314,087 | 2,522,950 | 792,814 | |
| 水循環的総利用量 | m ³ | 2,797,979 | 340,704 | 47,262 | 22,166,000 | |
| ※原則、冷却水を除く | リユース水 | 2,658,714 | 0 | 47,262 | 11,348,000 | |
| | リサイクル水 | 139,265 | 340,704 | 0 | 10,818,000 | |
| エネルギー使用総量 (=電力+化石燃料+新エネルギー+自給エネルギー) | GJ | 3,520,130 | 617,239 | 352,579 | 641,629 | |
| | 購入電力(自家発電電力除く) | kWh | 119,595,123 | 25,986,653 | 12,973,551 | 72,242,108 |
| | 自家発電電力量 | kWh | 99,834,862 | 14,028,930 | 716,700 | 71,668 |
| | A重油 | kl | 0 | 0 | 6,395 | 8 |
| | 都市ガス | Nm ³ | 59,646,086 | 7,340,035 | 1,142,446 | 6,017,329 |
| | LPGガス | t | 110 | 75 | 10 | 0 |
| | 石炭 | t | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 軽油 | kl | 463 | 2,892 | 2 | 3 |
| | 灯油 | kl | 46 | 0 | 0 | 1,272 |
| | ガソリン | kl | 950 | 1,195 | 118 | 1,456 |
| | 購入蒸気 | GJ | 0 | 0 | 0 | 7,197 |
| | 液化天然ガス | t | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 天然ガス (LNGを除く) | Nm ³ | 0 | 0 | 0 | 153,340 |
| | 太陽光 | GJ | 341 | 190 | 0 | 591 |
| | バイオマス | GJ | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 風力 | GJ | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 水力 | GJ | 72,970 | 36,759 | 0 | 0 |
| | 排水バイオガス | GJ | 286,494 | 3,741 | 0 | 0 |
| 製品生産量 (酒類・飲料) | 千kl | 2,333 | 447 | 268 | 0 | |
| 製品生産量 (医薬・バイオケミカル) | t | 0 | 0 | 0 | 150 | |
| 総排水量 ※冷却水を除く | m ³ | 10,563,597 | 601,788 | 2,426,878 | 2,001,872 | |
| | t | 184,842 | 8,154 | 2,131 | 1,646 | |
| 廃棄物総排出量 | 場内処理量 | t | 0 | 0 | 415 | 0 |
| | 廃棄物資源化量 | t | 184,798 | 8,154 | 1,715 | 1,556 |
| | 最終処分量 | t | 44 | 0 | 0 | 90 |

水資源

用水使用量・用水原単位の推移 (グループ全体)

| | 用水使用量 (千m ³) | 用水原単位 (売上収益あたり) (m ³ /百万円) | |
|-------|--------------------------|---------------------------------------|------|
| | | 日本基準 | IFRS |
| 2015年 | 80,625 | 39 | - |
| 2016年 | 81,620 | 42 | 44 |
| 2017年 | 79,583 | - | 43 |
| 2018年 | 76,319 | - | 40 |
| 2019年 | 68,218 | - | 35 |

用水使用量の推移 (事業別)

(単位:千m³)

| | 国内ビール・スピリッツ事業 | 国内飲料事業 | オセアニア総合飲料事業 | 医薬事業 | その他事業 (全社を含む) | 合計 |
|-------|---------------|--------|-------------|-------|---------------|--------|
| 2015年 | 13,101 | 2,515 | 5,444 | 4,046 | 55,520 | 80,625 |
| 2016年 | 12,896 | 2,656 | 5,514 | 3,110 | 57,443 | 81,620 |
| 2017年 | 13,190 | 2,341 | 5,469 | 3,047 | 55,534 | 79,583 |
| 2018年 | 14,049 | 2,345 | 5,378 | 2,309 | 52,238 | 76,319 |
| 2019年 | 14,470 | 2,211 | 5,023 | 2,232 | 44,283 | 68,218 |

用水使用量の推移 (地域別)

(単位:千m³)

| | 日本 | オセアニア | 東南アジア | その他 | 合計 |
|-------|--------|-------|-------|--------|--------|
| 2015年 | 63,292 | 5,444 | 2,317 | 9,573 | 80,625 |
| 2016年 | 62,707 | 5,514 | 2,560 | 10,838 | 81,620 |
| 2017年 | 61,721 | 5,469 | 2,500 | 9,892 | 79,583 |
| 2018年 | 58,120 | 5,378 | 2,811 | 10,011 | 76,319 |
| 2019年 | 50,333 | 5,023 | 3,654 | 9,208 | 68,218 |

取水源別年間用水使用量の推移 (グループ全体)

| | 単位 | 淡水 | | | | | 合計 |
|-------|-----------------|--------|-----------|--------|-----|-----------|--------|
| | | 上水 | 河川 (工水含む) | 地下水 | 雨水 | 中水※ (再生水) | |
| 2015年 | 千m ³ | 10,155 | 40,374 | 30,067 | 0 | 30 | 80,625 |
| | % | 13 | 50 | 37 | 0.0 | 0.0 | 100 |
| 2016年 | 千m ³ | 9,946 | 41,375 | 30,289 | 2 | 8 | 81,620 |
| | % | 12 | 51 | 37 | 0.0 | 0.0 | 100 |
| 2017年 | 千m ³ | 9,765 | 42,150 | 27,667 | 1 | 0 | 79,583 |
| | % | 12 | 53 | 35 | 0.0 | 0.0 | 100 |
| 2018年 | 千m ³ | 10,312 | 40,415 | 25,592 | 0 | 0 | 76,319 |
| | % | 14 | 53 | 34 | 0.0 | 0.0 | 100 |
| 2019年 | 千m ³ | 10,605 | 35,679 | 21,934 | 0 | 0 | 68,218 |
| | % | 16 | 52 | 32 | 0.0 | 0.0 | 100 |

※ 外部から供給されている中水

国内主要会社の用水使用量・用水原単位の推移

| | 単位 | 麒麟ビール | 麒麟ディスティラリー | 麒麟ビバレッジ | 信州ビバレッジ | メルシャン |
|-------|--------------------|--------|------------|---------|---------|-------|
| 2015年 | 千m ³ | 11,104 | 1,274 | 1,309 | 1,205 | 5,041 |
| | m ³ /kL | 4.9 | 3.3 | 3.4 | 5.4 | 39.3 |
| 2016年 | 千m ³ | 11,009 | 1,324 | 1,359 | 1,297 | 4,317 |
| | m ³ /kL | 5.0 | 3.1 | 2.9 | 5.2 | 32.6 |
| 2017年 | 千m ³ | 11,199 | 1,383 | 968 | 1,374 | 3,391 |
| | m ³ /kL | 5.3 | 3.2 | 2.2 | 5.2 | 25.5 |
| 2018年 | 千m ³ | 12,006 | 1,379 | 971 | 1,374 | 3,240 |
| | m ³ /kL | 5.3 | 3.1 | 2.1 | 5.3 | 22.5 |
| 2019年 | 千m ³ | 12,509 | 1,380 | 968 | 1,243 | 2,825 |
| | m ³ /kL | 5.3 | 3.1 | 2.2 | 4.8 | 19.8 |

※ 麒麟ビバレッジ滋賀工場分は麒麟ビール滋賀工場と併設のため、麒麟ビールに含まれています。

工場・事業所内における水の循環的利用量の推移 (グループ全体)

| | 単位 | 循環的利用量 | | | 循環的利用率 (%) |
|-------|-----------------|--------|---------|---------|------------|
| | | リユース水 | リサイクル水 | 合計 | |
| 2015年 | 千m ³ | 13,508 | 91,386 | 104,894 | 57 |
| | % | 12.9 | 87.1 | 100.0 | |
| 2016年 | 千m ³ | 13,386 | 86,180 | 99,566 | 55 |
| | % | 13.4 | 86.6 | 100.0 | |
| 2017年 | 千m ³ | 15,123 | 90,944 | 106,067 | 57 |
| | % | 14.3 | 85.7 | 100.0 | |
| 2018年 | 千m ³ | 18,993 | 105,010 | 124,003 | 62 |
| | % | 15.3 | 84.7 | 100.0 | |
| 2019年 | 千m ³ | 15,901 | 105,433 | 121,334 | 64 |
| | % | 13.1 | 86.9 | 100.0 | |

放出先別排水量の推移 (グループ全体)

| | 単位 | 排水量 | | | | 合計 |
|-------|-----------------|-------|---------------|-------------|------|--------|
| | | 下水 | 河川等への 直接排水 | 海への 直接排水 | その他* | |
| 2015年 | 千m ³ | 6,247 | 27,890 | 36,768 | 8 | 70,913 |
| | % | 9 | 39 | 52 | 0.0 | 100 |
| 2016年 | 千m ³ | 6,620 | 27,068 | 37,898 | 109 | 71,695 |
| | % | 9 | 38 | 53 | 0.2 | 100 |
| 2017年 | 千m ³ | 7,224 | 27,679 | 38,559 | 102 | 73,563 |
| | % | 10 | 38 | 52 | 0.1 | 100 |
| 2018年 | 千m ³ | 6,980 | 26,063 | 38,604 | 99 | 71,747 |
| | % | 10 | 36 | 54 | 0.1 | 100 |
| 2019年 | 千m ³ | 9,551 | 24,603 | 33,135 | 98 | 67,387 |
| | % | 14 | 37 | 49 | 0.1 | 100 |

*森林地への散水

容器包装

容器包装の資源利用量

| | 単位 | 国内ビール・ スピリッツ事業 | 国内飲料事業 | オセアニア 総合飲料事業 | 医薬事業 | その他事業 (全社を含む) | 合計 |
|-------|----|-------------------|--------|-----------------|------|------------------|-----|
| 2015年 | 千t | 204 | 152 | 281 | 0.4 | 115 | 752 |
| | % | 27 | 20 | 37 | 0.05 | 15 | 100 |
| 2016年 | 千t | 208 | 45 | 391 | 0.2 | 114 | 759 |
| | % | 27 | 6 | 51 | 0.03 | 15 | 100 |
| 2017年 | 千t | 219 | 51 | 332 | 0.3 | 117 | 719 |
| | % | 30 | 7 | 46 | 0.03 | 16 | 100 |
| 2018年 | 千t | 179 | 51 | 281 | 0.2 | 115 | 626 |
| | % | 29 | 8 | 45 | 0.03 | 18 | 100 |
| 2019年 | 千t | 178 | 49 | 249 | 0.6 | 65 | 542 |
| | % | 33 | 9 | 46 | 0.1 | 12 | 100 |

容器別資源利用量 (国内主要会社)

(単位: t)

| | | アルミ缶 | PETボトル | ガラスびん | カートン | 6缶パック |
|-------|-----|--------|--------|--------|---------|--------|
| 2015年 | 削減量 | 18,908 | 9,517 | 792 | 5,364 | 3,758 |
| | 使用量 | 70,648 | 58,917 | 32,280 | 109,234 | 15,522 |
| 2016年 | 削減量 | 18,795 | 11,326 | 960 | 6,078 | 3,564 |
| | 使用量 | 68,850 | 63,000 | 33,531 | 111,631 | 14,803 |
| 2017年 | 削減量 | 30,031 | 7,710 | 1,332 | 8,792 | 3,444 |
| | 使用量 | 66,915 | 60,561 | 31,276 | 102,693 | 14,499 |
| 2018年 | 削減量 | 19,226 | 12,218 | 870 | 5,798 | 3,629 |
| | 使用量 | 73,724 | 66,894 | 31,183 | 107,771 | 14,821 |
| 2019年 | 削減量 | 22,975 | 11,998 | 340 | 5,910 | 3,646 |
| | 使用量 | 77,912 | 67,747 | 27,844 | 109,526 | 16,716 |

*削減量はキリンビール、キリンビバレッジの合計、使用量はキリンビール、キリンビバレッジ、メルシャンの合計です。

(参考) 国内におけるその他容器のリサイクル率等の推移

キリングループは容器リサイクルに関する国内の業界団体と連携して取り組みを推進しています。

| | | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 目標* |
|--------|---------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| アルミ缶 | 消費重量 (千t) | 313 | 332 | 341 | 336 | 331 | — |
| | 再資源化重量 (千t) | 273 | 299 | 315 | 310 | 309 | — |
| | リサイクル率 (%) | 87.4 | 90.1 | 92.4 | 92.5 | 93.6 | 90%以上 |
| スチール缶 | 消費重量 (千t) | 571 | 486 | 463 | 451 | 439 | — |
| | 再資源化重量 (千t) | 525 | 451 | 435 | 422 | 404 | — |
| | リサイクル率 (%) | 92.0 | 92.9 | 94.0 | 93.4 | 92.0 | 85%以上 |
| PETボトル | 指定PETボトル販売量 (千t) | 569 | 563 | 596 | 587 | 626 | — |
| | 国内再資源化量 (千t) | 271 | 262 | 279 | 298 | 334 | — |
| | 海外再資源化量 (千t) | 199 | 227 | 221 | 201 | 195 | — |
| | 使用済PETボトル再資源化量 (千t) | 470 | 489 | 500 | 498 | 529 | — |
| | リサイクル率 (%) | 82.6 | 86.9 | 83.9 | 84.8 | 84.6 | 85%以上 |
| ガラスびん | 総溶解量 (千t) | 1,652 | 1,618 | 1,606 | 1,583 | 1,553 | — |
| | カレット使用量 (千t) | 1,230 | 1,228 | 1,211 | 1,189 | 1,160 | — |
| | カレット使用率 (%) | 74.4 | 75.9 | 75.4 | 75.1 | 74.7 | 90%以上 |
| | リサイクル率 (%) | 69.8 | 68.4 | 71.0 | 69.2 | 68.9 | — |

* 第2次自主行動計画のリサイクル目標。

リターナブルびん販売回収状況 (キリンビール)

| | 販売量 (百万本) | 回収量 (百万本) | 回収率 (%) |
|-------|-----------|-----------|---------|
| 2015年 | 248.7 | 247.1 | 99 |
| 2016年 | 232.0 | 232.7 | 100 |
| 2017年 | 224.6 | 227.8 | 101 |
| 2018年 | 205.1 | 203.2 | 99 |
| 2019年 | 182.6 | 182.3 | 100 |

* 主要なリターナブルびん (大びん、中びん、小びん) の集計値。

* キリンビールでは、ビールびん、業務用生大樽の再使用に取り組んでいます。容器の多様化に伴いリターナブルびんの使用量は減少していますが、その回収率は99%を超えています。また、キリンビバレッジでも、「キリンレモン」などでリターナブルびんを採用し、回収率はほぼ100%となっています。

気候変動

☑ を付けている2019年度の実績は、KPMGあずさサステナビリティによる、国際保証業務基準 (ISAE) 3000、ISAE3410に準拠した第三者の保証を受けています。

GHG排出量の推移

■ Scope1 (直接的排出) + Scope2 (エネルギーの利用に伴う間接的排出)

GHG排出量・排出原単位の推移 (グループ全体)

| | GHG排出量 (千tCO ₂ e) | | GHG排出原単位 (売上収益あたり) (tCO ₂ e/百万円) | |
|-------|------------------------------|----------------------|---|------|
| | | (うちCO ₂) | 日本基準 | IFRS |
| 2015年 | 1,004 | (1,002) | 0.49 | — |
| 2016年 | 1,012 | (1,010) | 0.52 | 0.55 |
| 2017年 | 996 | (995) | — | 0.53 |
| 2018年 | 986 | (983) | — | 0.51 |
| 2019年 | 949 | (948) | — | 0.49 |

GHG排出量の推移 (事業別)

(単位: 千tCO₂e)

| | 国内ビール・スピリッツ事業 | 国内飲料事業 | オセアニア総合飲料事業 | 医薬事業 | その他事業 (全社を含む) | 合計 ☑ |
|-------|---------------|--------|-------------|------|---------------|-------|
| 2015年 | 239 | 68 | 258 | 73 | 365 | 1,004 |
| 2016年 | 233 | 70 | 251 | 65 | 393 | 1,012 |
| 2017年 | 231 | 61 | 247 | 62 | 396 | 996 |
| 2018年 | 232 | 59 | 235 | 55 | 405 | 986 |
| 2019年 | 232 | 56 | 229 | 56 | 376 | 949 |

GHG排出量の推移 (地域別)

(単位: 千tCO₂e)

| | 日本 | オセアニア | 東南アジア | その他 | 合計 ☑ |
|-------|-----|-------|-------|-----|-------|
| 2015年 | 597 | 258 | 32 | 116 | 1,004 |
| 2016年 | 593 | 251 | 46 | 122 | 1,012 |
| 2017年 | 581 | 247 | 50 | 119 | 996 |
| 2018年 | 570 | 235 | 57 | 124 | 986 |
| 2019年 | 520 | 229 | 76 | 124 | 949 |

工場からのGHG排出量・排出原単位の推移

(a) キリンビール

| | GHG排出量 (千tCO ₂ e) | GHG排出原単位 (kgCO ₂ e/kL) |
|-------|------------------------------|-----------------------------------|
| 2015年 | 197 | 88 |
| 2016年 | 194 | 89 |
| 2017年 | 191 | 90 |
| 2018年 | 195 | 85 |
| 2019年 | 196 | 84 |

※GHG排出量には、販売電力分のGHG排出量を含む

(b) キリンビバレッジ

| | 湘南工場 | |
|-------|------------------------------|-----------------------------------|
| | GHG排出量 (千tCO ₂ e) | GHG排出原単位 (kgCO ₂ e/kL) |
| 2015年 | 28 | 90 |
| 2016年 | 31 | 77 |
| 2017年 | 28 | 64 |
| 2018年 | 27 | 60 |
| 2019年 | 26 | 59 |

(c) メルシャン

| | GHG排出量 (千tCO ₂ e) |
|-------|------------------------------|
| 2015年 | 26 |
| 2016年 | 28 |
| 2017年 | 29 |
| 2018年 | 30 |
| 2019年 | 25 |

エネルギー使用量の推移 (グループ全体)

| エネルギー種別使用量 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 |
|--------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総使用量 (TJ) | 12,426 | 12,803 | 12,972 | 13,081 | 12,630 |
| 石炭 (t) | 1,403 | 1,758 | 2,294 | 2,339 | 2,079 |
| ガソリン (kL) | 4,734 | 3,887 | 3,600 | 3,621 | 4,758 |
| 灯油 (kL) | 87 | 166 | 1,466 | 1,399 | 1,342 |
| 軽油 (kL) | 11,399 | 12,242 | 13,790 | 12,611 | 14,965 |
| 重油 (kL) | 10,544 | 11,674 | 12,475 | 14,006 | 9,430 |
| LPG (t) | 2,711 | 2,623 | 3,334 | 3,356 | 3,331 |
| 都市ガス (千Nm ³) | 108,465 | 111,648 | 110,950 | 112,987 | 96,747 |
| LNG (t) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 購入電力 (MWh) | 780,123 | 818,925 | 811,123 | 811,507 | 777,626 |
| 再生可能電力 (MWh) | 815 | 843 | 23,848 | 31,657 | 31,947 |
| 購入蒸気 (TJ) | 1,963 | 1,979 | 1,925 | 1,886 | 1,599 |
| その他 (TJ) | 1,680 | 1,662 | 1,771 | 1,811 | 2,413 |

GHG排出量の内訳および推移

■ Scope1 (直接的排出)

燃料の使用に伴うGHG排出量の推移 (事業別)

(単位:千tCO₂e)

| | 国内ビール・スピリッツ事業 | 国内飲料事業 | オセアニア総合飲料事業 | 医薬事業 | その他事業 (全社を含む) | 合計 <input checked="" type="checkbox"/> |
|-------|---------------|--------|-------------|------|---------------|--|
| 2015年 | 158 | 45 | 82 | 19 | 87 | 391 |
| 2016年 | 159 | 45 | 77 | 18 | 101 | 401 |
| 2017年 | 164 | 44 | 74 | 21 | 103 | 405 |
| 2018年 | 168 | 42 | 74 | 18 | 110 | 412 |
| 2019年 | 169 | 40 | 72 | 20 | 108 | 411 |

燃料の使用に伴うGHG排出量の推移 (地域別)

(単位:千tCO₂e)

| | 日本 | オセアニア | 東南アジア | その他 | 合計 <input checked="" type="checkbox"/> |
|-------|-----|-------|-------|-----|--|
| 2015年 | 254 | 82 | 17 | 37 | 391 |
| 2016年 | 259 | 77 | 18 | 47 | 401 |
| 2017年 | 266 | 74 | 21 | 44 | 405 |
| 2018年 | 271 | 74 | 21 | 46 | 412 |
| 2019年 | 264 | 72 | 26 | 48 | 411 |

Scope1におけるGHG排出量の内訳 (2019年)

(単位:千tCO₂e)

| 二酸化炭素 (CO ₂) | メタン (CH ₄) | 一酸化二窒素 (N ₂ O) | ハイドロフルオロカーボン (HFCs) | パーフルオロカーボン (PFCs) | 六フッ化硫黄 (SF ₆) |
|--------------------------|------------------------|---------------------------|---------------------|-------------------|---------------------------|
| 410 | 0.4 | <0.1 | 0 | 0 | 0 |

■ Scope2 (エネルギーの利用に伴う間接的排出)

電力および蒸気の購入に伴うGHG排出量の推移 (事業別)

(単位:千tCO₂e)

| | 国内ビール・スピリッツ事業 | 国内飲料事業 | オセアニア総合飲料事業 | 医薬事業 | その他事業 (全社を含む) | 合計 <input checked="" type="checkbox"/> |
|-------|---------------|--------|-------------|------|---------------|--|
| 2015年 | 81 | 23 | 176 | 54 | 279 | 613 |
| 2016年 | 74 | 26 | 174 | 46 | 292 | 611 |
| 2017年 | 67 | 17 | 173 | 41 | 293 | 591 |
| 2018年 | 64 | 17 | 161 | 37 | 295 | 574 |
| 2019年 | 62 | 16 | 157 | 35 | 268 | 538 |

電力および蒸気の購入に伴うGHG排出量の推移 (地域別)

(単位:千tCO₂e)

| | 日本 | オセアニア | 東南アジア | その他 | 合計 <input checked="" type="checkbox"/> |
|-------|-----|-------|-------|-----|--|
| 2015年 | 342 | 176 | 15 | 79 | 613 |
| 2016年 | 334 | 174 | 28 | 75 | 611 |
| 2017年 | 315 | 173 | 28 | 75 | 591 |
| 2018年 | 299 | 161 | 36 | 79 | 574 |
| 2019年 | 256 | 157 | 50 | 76 | 538 |

■ Scope3 (その他の間接的排出)

事業活動に関連する他者のCO₂排出量の推移 (事業別) 集計範囲はP.91

(単位:千tCO₂)

| | 国内ビール・スピリッツ事業 | 国内飲料事業 | オセアニア総合飲料事業 | 医薬事業 | その他事業 (全社を含む) | 合計 |
|-------|---------------|--------|-------------|------|---------------|-------|
| 2015年 | 1,553 | 1,037 | 1,314 | 16 | 642 | 4,561 |
| 2016年 | 1,521 | 1,099 | 800 | 14 | 767 | 4,200 |
| 2017年 | 1,413 | 1,060 | 1,083 | 15 | 793 | 4,364 |
| 2018年 | 1,483 | 1,060 | 761 | 14 | 845 | 4,163 |
| 2019年 | 1,569 | 1,095 | 712 | 13 | 852 | 4,241 |

事業活動に関連する他者のCO₂排出量の推移 (地域別) 集計範囲はP.91

(単位:千tCO₂)

| | 日本 | オセアニア | 東南アジア | その他 | 合計 |
|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| 2015年 | 3,209 | 1,314 | 0 | 39 | 4,561 |
| 2016年 | 3,244 | 800 | 112 | 44 | 4,200 |
| 2017年 | 3,081 | 1,083 | 152 | 47 | 4,364 |
| 2018年 | 3,145 | 761 | 209 | 48 | 4,163 |
| 2019年 | 3,201 | 712 | 284 | 44 | 4,241 |

輸送量・輸送距離および輸送に伴うCO₂排出量*の推移(国内)

| | | キリンビール | キリンビバレッジ | メルシャン | 合計 |
|-------|---|---------|----------|--------|-----------|
| 2014年 | 輸送量 (千t・km) | 589,483 | 706,443 | 99,654 | 1,395,580 |
| | CO ₂ 排出量 (千t-CO ₂) | 49 | 60 | 7 | 116 |
| 2015年 | 輸送量 (千t・km) | 604,865 | 791,106 | 85,488 | 1,481,459 |
| | CO ₂ 排出量 (千t-CO ₂) | 51 | 66 | 8 | 125 |
| 2016年 | 輸送量 (千t・km) | 641,171 | 830,808 | 87,036 | 1,559,015 |
| | CO ₂ 排出量 (千t-CO ₂) | 52 | 71 | 8 | 131 |
| 2017年 | 輸送量 (千t・km) | 735,996 | 822,256 | 87,904 | 1,646,156 |
| | CO ₂ 排出量 (千t-CO ₂) | 55 | 68 | 8 | 131 |
| 2018年 | 輸送量 (千t・km) | 823,267 | 906,144 | 94,212 | 1,823,623 |
| | CO ₂ 排出量 (千t-CO ₂) | 62 | 84 | 8 | 155 |

* 集計期間は、各年共に4月～翌年3月。「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」の算定基準に扱い、特定荷主の報告対象範囲で算定。

第三者保証

キリングroupは、情報の信頼性・透明性の確保を目的として第三者による保証を受けています。2019年はキリングroup全体のScope1、Scope2、およびキリンビール・キリンビバレッジ・メルシャン・小岩井乳業のScope3排出量について、第三者保証を取得しています。第三者保証報告書は、(P.122)をご覧ください。*1

キリングgroup全体のScope1、Scope2算定結果*2 (2019年) (単位:tCO2e/年)

| Scope1 | Scope2 |
|---------|---------|
| 410,875 | 537,858 |

キリンビール・キリンビバレッジ・メルシャン・小岩井乳業のScope3算定結果 (2019年) (単位:tCO2/年)

| 上流/下流 | Scope3のカテゴリー | 算定結果 | 備考 |
|-------|--------------------------------|-----------|--|
| 上流 | 1 購入した製品・サービス*1 | 1,694,074 | 原料・資材の購入量にそれぞれの原料・資材の製造時のCO2排出原単位を乗じて算定 |
| | 2 資本財 | - | 算定していない |
| | 3 Scope1,2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動 | 42,485 | 燃料や電力の購入量にエネルギー種別のCO2排出原単位を乗じて算定 |
| | 4 輸送・配送(上流) | 325,223 | 荷主としての製品出荷量および原料・資材の購入量に輸送距離を乗じ、輸送手段別のCO2排出原単位を乗じて算定 (なお、荷主としての製品出荷量に基づくCO2排出量は2018年度データを用いて算出) |
| | 5 事業から出る廃棄物 | 6,781 | 廃棄物排出量等に廃棄処理方法別のCO2排出原単位を乗じて算定 |
| | 6 出張 | 1,876 | 従業員数に移動方法別の平均年間移動距離を乗じ、移動方法毎のCO2排出原単位を乗じて算定 |
| | 7 雇用者の通勤 | 5,331 | 従業員数に移動方法別の平均年間移動距離を乗じ、移動方法毎のCO2排出原単位を乗じて算定 |
| | 8 リース資産(上流) | - | Scope1、2を含む |
| 下流 | 9 輸送・配送(下流) | 794,006 | 販売先:製品販売量に販売形態別の販売時のCO2排出原単位を乗じて算定 自販機:稼働自販機の推定電力消費量に電力のCO2排出係数を乗じて算定 |
| | 10 販売した製品の加工 | - | 該当せず |
| | 11 販売した製品の使用 | 34,826 | 製品販売量に家庭等での製品単位当たりの推定電力消費量と電力のCO2排出係数を乗じて算定。また、製品規格値から製品注入分CO2量を算定し、大気への放出量として算入 |
| | 12 販売した製品の廃棄 | 57,911 | 容器包装の排出量に容器包装種別のCO2排出原単位を乗じて算定 |
| | 13 リース資産(下流) | - | 該当せず |
| | 14 フランチャイズ | - | 該当せず |
| | 15 投資 | - | 該当せず |
| 合計 | | 2,962,514 | |

SBTによるGHG排出量中期削減目標*3に対する進捗 (2019年) 集計範囲はP.91

| Scope1+2 (単位:tCO2e) | | 合計 |
|---------------------|--------|---------|
| Scope1+Scope2 | | 881,943 |
| | Scope1 | 368,169 |
| | Scope2 | 513,774 |
| 増減比率 (2015年比) | | -8.5% |

| Scope3 | | 合計 |
|---------------|--------------------------------|-----------|
| Scope3 | | 3,982,794 |
| 上流 | 1 購入した製品・サービス | 2,306,915 |
| | 2 資本財 | - |
| | 3 Scope1,2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動 | 131,069 |
| | 4 輸送、配送(上流) | 405,309 |
| | 5 事業から出る廃棄物 | 32,549 |
| | 6 出張 | 9,406 |
| | 7 雇用者の通勤 | 14,207 |
| | 8 リース資産(上流) | - |
| 下流 | 9 輸送、配送(下流) | 929,111 |
| | 10 販売した製品の加工 | - |
| | 11 販売した製品の使用 | 44,635 |
| | 12 販売した製品の廃棄 | 109,592 |
| | 13 リース資産(下流) | - |
| | 14 フランチャイズ | - |
| | 15 投資 | - |
| 増減比率 (2015年比) | | -12.7% |

※1 「キリングgroup環境報告書2020」は2020年7月14日に公開しましたが、その後Scope3排出量の算定においてグループ全体の排出量に影響を与える誤りがあることが判明しました。修正内容を第三者保証会社に再度検証いただき、データを修正(カテゴリー1について1,587,564tCO2としていましたが、1,694,074tCO2に修正)すると共に、第三者保証報告書を再発行いただいで差し替え掲載しております。

※2 Scope1、2排出量の算定方法
 ・燃料:ライオンは、オーストラリア政府・ニュージーランド政府が定める算定基準に沿って算定。
 上記以外は日本の「地球温暖化対策の推進に関する法律」および「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」の算定基準に沿って算定。

・電力:購入電力量に各電力事業者が広報するCO2排出係数(広報値がない場合はIEA公表の国別排出係数)を乗じて算定。
 ・GHG排出量には、販売電力分のGHG排出量を含む。

※3 2030年までに2015年比で30%削減。

麒麟ビール工場のバイオガス発電量、バイオガス発生量の推移

| | バイオガス発電量 (単位:百万kWh) | バイオガス発生量 (単位:千Nm ³) |
|-------|---------------------|---------------------------------|
| 2015年 | 20.5 | 8,967 |
| 2016年 | 21.2 | 8,593 |
| 2017年 | 19.2 | 8,115 |
| 2018年 | 18.6 | 8,689 |
| 2019年 | 21.9 | 9,009 |

購入電力の内訳 (麒麟ビール工場)

(単位:千kWh)

| | | 2018年 | 2019年 |
|---------------------|----------------|---------|---------|
| 購入電力量 | 再生可能エネルギー (水力) | 20,627 | 20,269 |
| | 再生可能エネルギー以外 | 112,835 | 117,569 |
| | 合計 | 133,462 | 137,839 |
| 再生可能エネルギー/購入電力量 (%) | | 15% | 15% |

使用電力の内訳 (グループ全体)

(単位:千kWh)

| | | | 2018年 | 2019年 |
|-------|-----------------------------|---------|---------|---------|
| 購入電力量 | 再生可能エネルギー | 水力 | 30,813 | 30,480 |
| | | 風力 | 502 | 499 |
| | | 合計 | 31,315 | 30,979 |
| | 再生可能エネルギー以外 | 780,694 | 777,626 | |
| 自家発電量 | バイオガス発電量 | 19,099 | 22,291 | |
| | 太陽光発電量 | 342 | 968 | |
| | 再生可能エネルギー以外の発電量 | 165,746 | 160,790 | |
| 使用電力量 | | | 997,197 | 992,654 |
| | うち再生可能エネルギー量 (エネルギーミックスを除く) | | 50,757 | 54,238 |

缶・ボトル飲料自動販売機出荷1台あたりの年間消費電力量の推移

| | 年間消費電力量 (単位:kWh/年) |
|-------|--------------------|
| 2015年 | 708 |
| 2016年 | 724 |
| 2017年 | 712 |
| 2018年 | 702 |
| 2019年 | 704 |

出典:日本自動販売システム機械工業会

CO₂排出量削減のための導入技術、導入設備 (国内)

| | | 太陽光発電 | バイオガスボイラー | バイオガスエンジン式 コージェネレーション システム |
|---------|-----------|-----------------|-----------|----------------------------------|
| 麒麟ビール | 北海道工場 | — | ○ 2009年 | — |
| | 仙台工場 | — | — | ○ 2005年 |
| | 取手工場 | ○ 2007年 (20 kW) | ○ 1999年 | ○ 2006年 |
| | 横浜工場 | ○ 2006年 (30 kW) | ○ 2008年 | ○ 2004年 |
| | 名古屋工場 | ○ 2008年 (20 kW) | — | ○ 2009年 |
| | 滋賀工場 | ○ 2006年 (10 kW) | ○ 2009年 | — |
| | 神戸工場 | ○ 2005年 (20 kW) | ○ 1996年 | ○ 2002年 |
| | 岡山工場 | ○ 2007年 (20 kW) | ○ 2011年 | ○ 2007年 |
| | 福岡工場 | ○ 2006年 (20 kW) | ○ 2012年 | ○ 2006年 |
| 麒麟ビバレッジ | 湘南工場 | ○ 2006年 (60 kW) | ○ 2014年 | — |
| 協和麒麟 | 東京リサーチパーク | ○ 2010年 (20 kW) | — | — |
| | 高崎工場 | ○ 2013年 (30 kW) | — | — |
| | 富士リサーチパーク | ○ 2008年 (20 kW) | — | — |
| 小岩井乳業 | 宇部工場 | ○ 2012年 (45kW) | — | — |
| | 小岩井工場 | ○ 1996年 (10 kW) | — | — |
| 信州ビバレッジ | 本社工場 | ○ 2015年 (8.8kW) | — | — |

※ 再生可能エネルギーについては、上記のほか、2007年より麒麟ビールが横浜市風力発電事業 (定格出力1,980kW) に協賛を実施。現在は、麒麟ホールディングスが一般協賛事業者として発電した電力の利用を証明する「グリーン電力証書」の発行を受けて「ココニフ」や「SPRING VALLEY BREWERY TOKYO」で使用しています。詳しくはP.68をご覧ください。

※ 麒麟ビール、麒麟ビバレッジでは、排水処理に嫌気処理設備を導入していますが、この際に副生成物としてメタンを主成分とするバイオガスが回収できます。このバイオガスは再生可能エネルギーで、コージェネレーションやボイラーの燃料とすることでCO₂の排出抑制に貢献しています。

廃棄物削減と汚染の防止

廃棄物発生量 (2019年)

(単位:千t カッコ内は%)

| 国内ビール・スピリッツ事業 | 国内飲料事業 | オセアニア総合飲料事業 | 医薬事業 | その他事業(全社を含む) | 合計 |
|---------------|-----------|-------------|------------|--------------|--------------|
| 198 (42) | 17 (4) | 148 (31) | 2 (0.4) | 106 (22) | 470 (100) |

廃棄物発生量と再資源化率の推移 (国内)

| | 廃棄物発生量(千t) | 場内処理量(千t) | 廃棄物資源化量(千t) | 最終処分量(千t) | 再資源化率(%) |
|-------|------------|-----------|-------------|-----------|----------|
| 2015年 | 228 | 14 | 213 | 0.5 | 99.8 |
| 2016年 | 237 | 17 | 219 | 0.4 | 99.8 |
| 2017年 | 243 | 24 | 219 | 0.6 | 99.7 |
| 2018年 | 346 | 12 | 333 | 0.7 | 99.8 |
| 2019年 | 230 | 2 | 227 | 0.6 | 99.8 |

排水品質の状況

| | COD (t) | | | 窒素 (t) | | | リン (t) | | |
|-------|---------|-------|-------|--------|-----|-------|--------|-----|-----|
| | 国内 | 海外 | 総計 | 国内 | 海外 | 総計 | 国内 | 海外 | 総計 |
| 2018年 | 742 | 3,127 | 3,869 | 344 | 826 | 1,169 | 45 | 220 | 264 |
| 2019年 | 735 | 3,682 | 4,417 | 315 | 754 | 1,069 | 47 | 265 | 312 |
| 前年差 | -7 | 555 | 548 | -28 | -72 | -100 | 2 | 45 | 48 |

大気汚染物質の排出量の推移

NOx、SOx排出量の推移 (グループ全体)

(単位:t)

| | NOx | SOx |
|-------|-----|-----|
| 2015年 | 271 | 71 |
| 2016年 | 442 | 64 |
| 2017年 | 431 | 95 |
| 2018年 | 436 | 19 |
| 2019年 | 425 | 15 |

VOC排出量の推移 (協和キリングroup、協和発酵バイオgroup)

(単位:t)

| | メタノール | アセトン | PRTR法対象物質 | 酢酸エチル他 | 合計 |
|-------|-------|------|-----------|--------|-----|
| 2015年 | 376 | 32 | 57 | 105 | 570 |
| 2016年 | 324 | 21 | 55 | 88 | 488 |
| 2017年 | 417 | 21 | 62 | 97 | 596 |
| 2018年 | 308 | 13 | 57 | 103 | 481 |
| 2019年 | 183 | 8 | 49 | 74 | 314 |

土壌の調査状況 (2019年)

| 調査件数 (件) | 調査面積 (m ²) |
|----------|------------------------|
| 5 | 116,835 |

化学物質に関する目標

| 協和キリングroup |
|---------------------------|
| 2020年度VOC排出量を2003年度比50%削減 |

PCB管理状況 (2019年)

(単位:台)

| 高濃度コンデンサ・リアクトルなど | 微量コンデンサ・リアクトルなど | 高濃度安定器 | 微量安定器 |
|------------------|-----------------|--------|-------|
| 0 | 26 | 16 | 69 |

アスベスト管理状況 (2019年)

| 建屋数 (棟) | 面積 (m ²) |
|---------|----------------------|
| 4 | 2,590 |

HCFC管理状況 (2019年)

| 事務所数 (箇所) | 重量 (kg) |
|-----------|---------|
| 13 | 25,345 |

HFC管理状況 (2019年)

| 事務所数 (箇所) | 重量 (kg) |
|-----------|---------|
| 6 | 14,921 |

化学物質管理

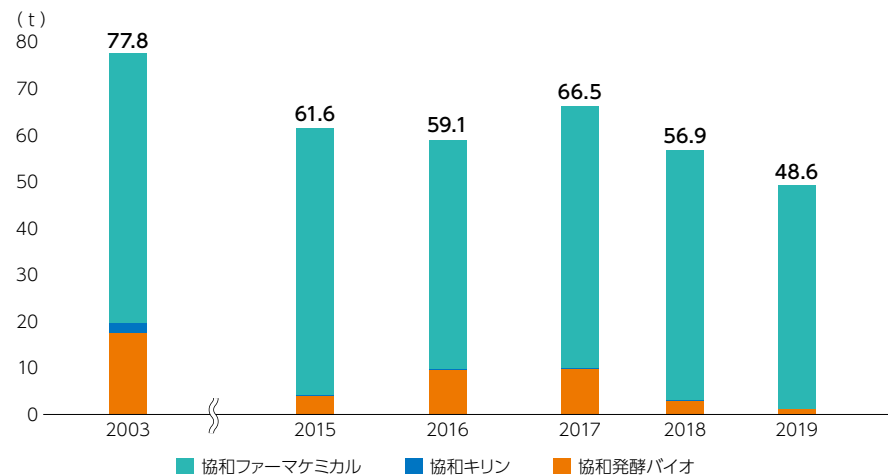
PRTR法第1種指定化学物質排出量の推移 (国内、協和キリングループ・協和発酵バイオグループ) (単位:t)

| 政令 指定 番号 | 物質名称 | 2017年 | | | 2018年 | | | 2019年 | | |
|----------------|------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| | | 大気 排出 量 | 水域 排出 量 | 土壌 排出 量 | 大気 排出 量 | 水域 排出 量 | 土壌 排出 量 | 大気 排出 量 | 水域 排出 量 | 土壌 排出 量 |
| 2 | アクリルアミド | | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 9 | アクリロニトリル*1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 11 | アジ化ナトリウム | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | | | | | |
| 13 | アセトニトリル | 0.02 | 0.36 | 0.00 | 0.02 | 0.29 | 0.00 | 0.02 | 0.26 | 0.00 |
| 20 | 2-アミノエタノール | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.001 | 0.00 | 0.00 | 0.0001 | 0.00 | 0.00 |
| 53 | エチルベンゼン | 4.80 | 0.00 | 0.00 | 0.96 | 0.00 | 0.00 | | | |
| 59 | エチレンジアミン | | | | | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 60 | エチレンジアミン四酢酸 | | | | | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 71 | 塩化第二鉄 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 80 | キシレン | 5.05 | 0.00 | 0.00 | 1.88 | 0.00 | 0.00 | 0.97 | 0.00 | 0.00 |
| 82 | 銀及びその水溶性化合物 | | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 87 | クロム及び三価クロム化合物 | | | | | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 104 | クロロジフルオロメタン(別名HCFC-22) | | | | | | | 0.001 | 0.00 | 0.00 |
| 127 | クロロホルム*1 | 0.00 | 0.15 | 0.00 | 0.002 | 0.16 | 0.00 | 2.34 | 0.21 | 0.00 |
| 132 | コバルト及びその化合物 | | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 137 | シアナミド | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 157 | 1,2-ジクロロエタン*1 | 3.15 | 0.00 | 0.00 | 0.54 | 0.00 | 0.00 | | | |
| 186 | ジクロロメタン(別名塩化メチレン)*1 | 1.42 | 0.00 | 0.00 | 1.55 | 0.001 | 0.00 | 1.15 | 0.001 | 0.00 |
| 215 | 2,6-ジメチルアニリン | | | | | | | 0.00 | 0.003 | 0.00 |
| 218 | ジメチルアミン | 0.07 | 0.17 | 0.00 | 0.09 | 0.24 | 0.00 | 0.14 | 0.37 | 0.00 |
| 232 | N,N-ジメチルホルムアミド | 0.36 | 0.13 | 0.00 | 2.88 | 0.37 | 0.00 | 2.53 | 0.34 | 0.00 |
| 272 | 銅水溶性塩(錯塩を除く) | | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 275 | ドデシル硫酸ナトリウム*2 | | | | | | | 0.00 | 0.01 | 0.00 |
| 282 | トリクロロ酢酸 | | | | | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 300 | トルエン | 35.62 | 0.02 | 0.00 | 38.81 | 0.03 | 0.00 | 33.3 | 0.02 | 0.00 |
| 305 | 鉛化合物 | | | | | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 308 | ニッケル | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 309 | ニッケル化合物 | 0.00 | 0.14 | 0.00 | 0.00 | 0.35 | 0.00 | 0.00 | 0.57 | 0.00 |
| 342 | ピリジン | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.01 | 0.10 | 0.00 |
| 349 | フェノール | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 392 | ノルマル-ヘキサン*2 | 10.79 | 0.00 | 0.00 | 9.80 | 0.00 | 0.00 | 8.00 | 0.00 | 0.00 |
| 395 | ペルオキシ二硫酸の水溶性塩 | | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 398 | ベンジル=クロリド(別名塩化ベンジル) | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | | |

| 政令 指定 番号 | 物質名称 | 2017年 | | | 2018年 | | | 2019年 | | |
|----------------|--------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| | | 大気 排出 量 | 水域 排出 量 | 土壌 排出 量 | 大気 排出 量 | 水域 排出 量 | 土壌 排出 量 | 大気 排出 量 | 水域 排出 量 | 土壌 排出 量 |
| 405 | ほう素化合物 | 0.00 | 3.99 | 0.00 | 0.00 | 3.53 | 0.00 | 0.00 | 2.59 | 0.00 |
| 408 | ポリ(オキシエチレン)=オクチルフェニルエーテル | | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 411 | ホルムアルデヒド*1 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.005 | 0.00 | 0.00 | 0.005 | 0.00 | 0.00 |
| 438 | メチルナフタレン | 0.28 | 0.00 | 0.00 | 0.33 | 0.00 | 0.00 | 0.17 | 0.00 | 0.00 |
| 455 | モルホリン | | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | | |
| 462 | りん酸トリ-ノルマル-ブチル | | | | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 合計 | | 61.56 | 4.96 | 0.00 | 56.87 | 4.97 | 0.00 | 48.64 | 4.47 | 0.00 |
| 243 | ダイオキシン類(mg-TEQ) | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | | | | | |

※1 化学業界が定めた12化学物質に含まれる物質
 ※2 PRTR法改正により2010年度から新規に第1種指定化学物質に追加されたもの
 ※3 0:使用実績あり、排出なし データなし:使用実績なし

PRTR 法第1種指定化学物質排出量の推移



サイトデータ

麒麟ビール (2019年) ※1

| 工場 | エネルギー原単位 (GJ/kL) | 用水原単位 (m ³ /kL) | GHG排出原単位 (kgCO ₂ e/kL) | 排水原単位 (m ³ /kL) |
|---------|---------------------|-------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------|
| 北海道千歳工場 | 1.66 | 4.4 | 168 | 3.2 |
| 仙台工場 | 1.46 | 11.7 | 96 | 12.3 |
| 取手工場 | 1.07 | 4.9 | 50 | 3.9 |
| 横浜工場 | 3.22 | 6.0 | 159 | 4.3 |
| 名古屋工場 | 1.53 | 5.8 | 98 | 5.4 |
| 滋賀工場※2 | 1.20 | 4.0 | 73 | 3.4 |
| 神戸工場 | 1.14 | 3.8 | 64 | 3.6 |
| 岡山工場 | 1.12 | 5.3 | 76 | 4.1 |
| 福岡工場 | 1.33 | 4.7 | 67 | 4.4 |

※1 エネルギー原単位、GHG排出原単位には、販売電力分を含む。

麒麟ビバレッジ※2 (2019年)

| | 用水量 (千m ³) | GHG排出量 (千tCO ₂ e) | 廃棄物排出量 (t) | 再資源化率 (%) |
|------|---------------------------|---------------------------------|---------------|--------------|
| 湘南工場 | 968 | 26 | 8,154 | 100 |

※2 麒麟ビバレッジ滋賀工場分は麒麟ビール滋賀工場と併設のため、麒麟ビールに含まれています。

メルシャン (2019年)

| | 用水量 (千m ³) | GHG排出量 (千tCO ₂ e) | 廃棄物排出量 (t) | 再資源化率 (%) |
|------------|---------------------------|---------------------------------|---------------|--------------|
| 藤沢工場 | 301 | 7 | 165 | 100 |
| 八代工場 | 2,486 | 18 | 1,809 | 100 |
| シャトー・メルシャン | 38 | 0.4 | 38 | 100 |

協和キリングroup (国内、2019年)

| 工場 | エネルギー原単位 | | 用水量 (千m ³) | CO ₂ 排出量 (t) | 廃棄物発生量 (t) |
|----------------------------------|----------|-----------------------|---------------------------|----------------------------|---------------|
| | 数量 | 単位 | | | |
| 協和キリン 東京リサーチパーク | 2.56 | GJ/m ² 床面積 | 18 | 2,815 | 58 |
| 協和キリン 富士リサーチパーク/ CMC研究センター | 4.69 | GJ/m ² 床面積 | 1,785 | 15,254 | 162 |
| 協和キリン パイオ生産技術研究所/高崎工場 | 7.18 | GJ/m ² 床面積 | 314 | 22,045 | 521 |
| 協和キリン 宇部工場 | 6.61 | GJ/m ² 床面積 | 92 | 8,889 | 300 |

環境マネジメント認証取得状況

2020年7月現在の状況です。

日本

| 事業会社 | 事業所 | 種類 |
|------------|--|--------|
| 麒麟ビール | 統合認証 (10) | 自己適合宣言 |
| 麒麟ビバレッジ | 統合認証 (3) | 自己適合宣言 |
| メルシャン | 統合認証 (3) | 自己適合宣言 |
| 麒麟ディスティラリー | 富士御殿場蒸溜所 (1) | 自己適合宣言 |
| 信州ビバレッジ | 本社工場 | 第三者認証 |
| 協和麒麟 | 高崎工場、宇部工場、東京リサーチパーク、富士事業場 | 自己適合宣言 |
| 協和発酵バイオ | 本社、山口事業所防府、山口事業所宇部、ヘルスケア土浦工場、ヘルスケア商品開発センター | 第三者認証 |
| 協和ファーマケミカル | 協和ファーマケミカル | 第三者認証 |

| | |
|-------------|----|
| 第三者認証取得事業所数 | 7 |
| 自己適合宣言事業所数 | 21 |
| 認証未取得事業所数 | 2 |
| 取得率 (%) | 93 |

海外

| 事業会社 | 事業所 | 種類 |
|-----------------|--|-------|
| ライオン | Little Creatures Brewery Fremantle Little Creatures Brewery Geelong Little Creatures Packaging O'Connor Malt Shovel Brewery Castlemaine Perkins Brewery James Boag Brewery West End Brewery Tooheys Brewery Pride Brewery Speights Brewery Wither Hills Winery | 第三者認証 |
| ライオン (デアリーファーム) | Leeton Smithfield Burnie King Island Dairy Loorana Morwell Wetherill Park Bentley Chelsea Heights Crestmead Lenah Valley Malanda Penrith Salisbury | 第三者認証 |
| ベトナム麒麟ビバレッジ | ベトナム麒麟ビバレッジ | 第三者認証 |
| 麒麟啤酒 (珠海) 有限公司 | 金鼎工場 | 第三者認証 |
| ミャンマー・ブルワリー | ミャンマー・ブルワリー | 第三者認証 |
| 協和発酵バイオ | Thai Kyowa Biotechnologies Co., Ltd. 上海協和アミノ酸有限公司 | 第三者認証 |
| 東麒麟 | カンピーナス工場 | 第三者認証 |

| | |
|-----------|----|
| 認証取得事業所数 | 30 |
| 認証未取得事業所数 | 7 |
| 取得率 (%) | 81 |

環境への取り組みの歴史

環境年表

| 年 | 組織・方針など 環境マネジメント | 環境保全の取り組み | 容器包装の取り組み | 社会的取り組み |
|-------|--|---|---|--|
| 2020年 | ■「キリングループ環境ビジョン2050」を発表 | — | — | — |
| 2019年 | — | ■キリンビール岡山工場に、化石燃料から電力へのエネルギーシフトを目的にヒートポンプ導入 | ■「キリングループ プラスチックポリシー」を発表 ■28.3gの国産最軽量2L PETボトルを開発・使用開始 ■「キリン 生茶デカフェ」で再生PET樹脂を100%使用した「R100ペットボトル」全面採用 ■キリンビール・キリンビバレッジで紙容器のFSC認証紙採用100%を達成 | ■学童保育などを対象とした「環境マークプログラム」の試行を開始 |
| 2018年 | ■「TCFD提言」への賛同を表明 ■環境報告書2019年版で、TCFD提言に基づいたシナリオ分析を進む開示を試行 | — | — | ■「FSC フォレスト・ウィーク2018」イベントに協賛 |
| 2017年 | ■「CSVコミットメント」を発表。GHG削減目標がSBTから承認 | — | ■2020年末までにすべての紙製容器包装でFSC認証紙切り替えを目指すことを宣言 | — |
| 2016年 | ■メルシャンの環境マネジメントシステムISO14001を自己適合宣言に移行。キリン配下3事業会社の環境マネジメントシステムを統合 | — | ■「トロピカーナ100%」シリーズ250mlにグループで初めてFSC認証紙を採用 | ■「EARTH HOUR 2016 in Yokohama」イベントに協賛 |
| 2014年 | ■キリンビール、キリンビバレッジの環境マネジメントシステムISO14001を自己適合宣言に移行(7月) | — | ■国産最軽量ビール中びんのテスト展開を開始(11月) ■国産最軽量2L PETボトルの開発完了 | ■中高生を対象としたワークショップ「キリン・スクール・チャレンジ」開始 |
| 2013年 | ■「キリングループ長期環境ビジョン」策定 | ■メルシャン(八代工場へ蒸気再圧縮設備導入) | ■キリンビバレッジの一部2L商品で再生PET素材の使用率を10%から50%へ向上 ■キリンビバレッジで再生PET素材100%からつくる環境配慮型PETボトルを開発 | — |
| 2012年 | ■「キリングループ環境戦略」策定・取締役会決議(5月) ■「キリングループ持続可能な生物資源調達ガイドライン」「行動計画」策定(12月) | — | ■キリンビバレッジ「生茶」においてPETボトルをPETボトルに戻す「ボトルtoボトル」開始 ■キリンビール国産最軽量となる新形状の6缶パック板紙を開発 | ■キリン横浜ピアビレッジの庭園、ピオトープをリニューアル |
| 2011年 | ■キリンビジネスエキスパート改組・キリングループオフィス設立に伴い、キリングループオフィスに品質・環境推進部を設置(1月) ■キリングループ CO ₂ 排出SCOPE3の第三者格付取得 | ■協和発酵キリン宇部工場へ太陽光発電導入 | ■キリンビバレッジ、PETボトル用樹脂ラベルの水溶性インク印刷技術を開発 | ■キリンビバレッジ、神奈川県と「森林再生パートナー制度」契約締結により、「キリンビバレッジかながわの森」誕生 |

| 年 | 組織・方針など 環境マネジメント | 環境保全の取り組み | 容器包装の取り組み | 社会的取り組み |
|-------|--|---|---|---|
| 2010年 | ■キリンビジネスエキスパートに品質・環境推進部を設置し、キリングループの品質・環境マネジメント統括機能を移管(3月) ■「キリングループ生物多様性保全宣言」を策定(10月) ■「キリングループ遺伝資源アクセス管理原則」策定 ■「生物多様性民間参画パートナーシップ」に参加 | ■協和発酵キリン東京リサーチパークへ太陽光発電システム導入(3月) ■キリンビバレッジ舞鶴工場へ天然ガスボイラ導入(5月) ■キリンビールが「エコレールマーク」認定企業に選定 | ■無糖茶で国産最軽量の2L PETボトル「NEWペコロジー®ボトル」を「キリン生茶」リニューアル時に採用 ■国産最軽量の2L PETボトル「NEWペコロジー®ボトル」を「アルカリイオンの水」に採用 ■メルシャン、国産最軽量(メルシャン調べ 2010年8月現在)となる720mlのワインびんを導入 ■メルシャン、内面に特殊加工を施すことにより酸素バリア性を向上させた「ワインのためのペットボトル」を、一部製品に採用 | ■キリンビール福岡・佐賀両支社、ブリヂストンと協働で筑後川と有明海の環境保全に売上の一部を寄付 |
| 2009年 | ■「キリングループ低炭素企業アクションプラン」を策定。バリューチェーンで1990年比2050年に半減の目標 ■キリンホールディングスCSR推進部をCSR・品質推進部に改組、キリンビールにCSR推進部設置(3月) ■協和発酵キリンISO14001統合認証取得(5月) | ■農林水産省・国家プロジェクトのバイオエタノール十勝プラント竣工(5月) ■「エコファースト推進協議会」が発足し、キリンビール社長が議長に就任(12月) | ■キリンビール、6缶パック板紙にショートガセットタイプを採用 | ■キリンビバレッジ、ボルネオ保全トラストジャパンと共同でボルネオ支援自販機設置開始 |
| 2008年 | ■キリンビールISO14001統合認証取得(6月) ■キリングループ環境方針改訂(10月) ■キリンビバレッジ本社ISO14001取得(12月) ■「低炭素企業グループ」をCSRの柱として設定 | ■環境負荷低減を目指し、北海道地区一部でキリンビールとサッポロビールとの共同配送を開始 ■キリンビール社「エコ・ファーストの約束」宣言により環境省「エコ・ファースト制度」の製造業第1号として認定 | — | ■ユニーグループ共同企画「麒麟淡麗(生)緑の募金デザイン缶」売り上げ一部を国土緑化推進機構「緑の募金」寄付 ■キリンビール山陰支社「三朝・キリン恵みの森」、キリンビール北陸工場「能美里山の森」活動開始 |
| 2007年 | ■純粋持株会社制導入にともない会社分割、キリンホールディングス(株)商号変更(7月)し、CSR推進部社会環境室設置 | ■キリンビール、農林水産省・国家プロジェクト「バイオ燃料地域利用モデル実証事業(北海道十勝地区)」に参画 ■環境負荷低減、コスト削減を目指してキリンビール、キリンビバレッジとサントリー社で資材調達協力について合意(缶蓋規格共有、段ボール原紙共同調達) | — | ■キリンファーマ高崎工場「水源の森」活動開始 ■「クールビス・オブ・ザ・イヤー」(クールビス推進協議会主催)の「クールビスエグゼクティブ部門」をキリンホールディングス加藤社長受賞 |
| 2006年 | — | ■太陽光発電導入(キリンビール福岡工場 20kW、広島ブルーフリー 10kW、横浜工場 20kW、キリンビバレッジ湘南工場 60kW) ■オンサイト事業による天然ガスボイラシステムとNAS電池導入(キリンビール取手工場) ■キリンビール、「横浜市風力発電事業」への協賛 ■キリンビバレッジ「エコレール」認定企業に選定 | — | ■キリンビール福岡工場「水源の森」活動開始によりビール全工場の活動となる ■キリンディスティラリー御殿場蒸溜所「水源の森」活動開始 |

| 年 | 組織・方針など 環境マネジメント | 環境保全の取り組み | 容器包装の取り組み | 社会的取り組み |
|------------------------------|---|---|---|---|
| 2005年 | <ul style="list-style-type: none"> ■ キリン社の主要4研究所でEA21を取得 ■ ISO14001グループ会社3事業所で取得 ■ CSR・CC本部発足に伴い社会コミュニケーショングループ社会環境室に組織改変 | <ul style="list-style-type: none"> ■ キリンビール神戸工場へ太陽光発電システム導入(20kW) ■ 環境省が展開している地球温暖化防止「国民運動」[チーム・マイナス6%]に賛同し、「クールビズ」[ウォームビズ]などのCO₂削減に向けた活動に取り組む | <ul style="list-style-type: none"> ■ 国産最軽量のPETボトル「ペコロジ[®]ボトル」を「キリン生茶」リニューアル時に採用 | <ul style="list-style-type: none"> ■ キリンビール千歳工場、北陸工場、名古屋工場「水源の森」活動開始 ■ キリンビール、株主優待「エコジロー募金」を国土緑化推進機構「緑の募金」寄付 |
| 2004年 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 武田キリン社にてISO14001認証取得 ■ キリンビール首都圏地区本部、横浜アリーナ、キリンダイニングにてEA21(Eco Action21)認証取得 ■ 主要物流会社計15社にてグリーン経営システム(交通エコロジ[®]・モビリティ財団)認証取得 | <ul style="list-style-type: none"> ■ バイオガスと都市ガス混焼ガスエンジン式コージェネレーション設備の導入(キリンビール横浜工場) ■ キリンビール医薬部門の営業車を中心に一部ハイブリッド車導入開始 ■ ビール工場で使用する燃料を重油から都市ガスへ転換(キリンビール千歳工場) | <ul style="list-style-type: none"> ■ キリンビール、ビール・発泡酒・チューハイ・清涼発泡飲料の250ml缶・350ml缶・500ml缶全商品にコーナークットカートンを採用 | <ul style="list-style-type: none"> ■ キリンビール滋賀工場、取手工場「水源の森」活動開始 |
| 2003年 | <ul style="list-style-type: none"> ■ キリンビール、第12回地球環境大賞経済産業大臣賞受賞 ■ キリンビール、2004年中期計画策定に環境保全を全社の重点課題のひとつと設定 ■ キリンビール新川本社ISO14001更新審査において企画管理部門に範囲拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ■ バイオガスを利用した新型燃料電池の実用化(キリンビール取手工場) ■ キリンビール、営業車の軽自動車化開始 ■ 協和発酵キリン全社でゼロエミッション達成 | <ul style="list-style-type: none"> ■ キリンビール、軽量リターナブル大びん100%切替完了(6月) ■ グループダノンと共同開発した「ペコロジ[®]ボトル」を「キリンアルカリイオンの水」2L PETボトルリニューアル時に採用 | <ul style="list-style-type: none"> ■ キリンビール栃木工場「水源の森」活動開始 ■ 日本サッカー協会とともに「グリーンスタジアム」活動開始 |
| 2002年 | <ul style="list-style-type: none"> ■ キリンビール地区本部での環境マネジメントシステム導入 | <ul style="list-style-type: none"> ■ バイオガス・コージェネレーション設備の導入(キリンビール神戸工場) | <ul style="list-style-type: none"> ■ 製缶時に環境負荷の低いaTULC缶を「キリン極生」に採用 ■ キリンビール、リターナブル中びんをこれまでのプリントびんからエンボス加工に順次切り替え | <ul style="list-style-type: none"> ■ キリンビール岡山工場「水源の森」活動開始 ■ キリンビール取手工場、岡山工場、滋賀工場ピオトープを造成 |
| 2001年 | <ul style="list-style-type: none"> ■ キリンビール本社・高崎医薬工場・各研究所で環境会計導入 ■ 「キリンビールにおける環境マネジメントの実践」(日科技連出版社)を出版 ■ キリンビール高崎医薬工場でISO14001の認証取得(11月) | <ul style="list-style-type: none"> ■ 副産物の再資源化用途開発であるビール酵母食物繊維「BYC」を発売 | — | <ul style="list-style-type: none"> ■ キリンビール仙台工場「水源の森」活動開始 ■ キリンビール栃木工場ピオトープを造成 ■ キリンビバレッジ「かながわ水源の森」パートナー参画 |
| 1923年～2000年の取り組みはキリンビールのみです。 | | | | |
| 2000年 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全ビール工場で環境会計を導入 ■ 社内向け教育ビデオ「持続可能な社会を目指して～キリンビールの環境対策」を制作 ■ 本社でISO14001の認証取得(12月) ■ キリンビバレッジ湘南工場ISO14001認証取得 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 一部の支社で再資源化率100%を達成 ■ 副産物の再資源化新規用途であるビール酵母細胞壁コーティング剤「イーストラップ」、潰瘍性大腸炎患者用食品「GBF」発売開始 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 容器包装リサイクル法完全施行によりガラスびんに加えて紙・プラスチック容器包装の再商品化委託料を申請 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 神戸工場「水源の森」活動開始 ■ 仙台工場ピオトープを造成 |

| 年 | 組織・方針など 環境マネジメント | 環境保全の取り組み | 容器包装の取り組み | 社会的取り組み |
|-------|--|--|--|--|
| 1999年 | <ul style="list-style-type: none"> ■ キリングループの「環境方針」(環境理念・基本方針)を改定(8月) ■ 「グリーン調達基本方針」(7月)、「グリーン調達指針」(11月)を制定 ■ 全ビール工場(12工場)でISO14001の認証を取得 ■ 全ビール工場で環境会計システム導入に向けての基準作成 ■ キリンビバレッジ舞鶴工場ISO14001認証取得 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 全ビール工場で再資源化率100%を維持 ■ 本社で再資源化率100%を達成 ■ 燃料電池の導入(栃木工場3月設置) | <ul style="list-style-type: none"> ■ LCA手法活用した容器開発(クリアリニュー) ■ 容器間比較研究会に参画 ■ リターナブル小びんのスリム化実施(従来品より10%軽量化) | <ul style="list-style-type: none"> ■ 高校生向け環境教育ビデオ「彼と彼女とごみの関係～資源循環型社会を目指して～」を制作・配布(5月) ■ 神奈川県「かながわ水源の森林づくり」パートナー第1号として参画し、横浜工場「水源の森」活動開始 ■ 屋久島ゼロ・エミッション活動に賛同・支援・参画 ■ ビールびんリサイクルパンフレットを作成・活用 |
| 1998年 | <ul style="list-style-type: none"> ■ ビール工場のCO₂排出削減目標を設定(2010年に総量・原単位を1990年比マイナス25%) | <ul style="list-style-type: none"> ■ ビール業界で初めて、全ビール工場で再資源化率100%を達成 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 「環境に最適した包装・容器設計ガイドライン」を見直し「環境に最適した容器包装等設計指針」として改定(6月) ■ 再資源化対応のガラスびんの着色技術を開発 | <ul style="list-style-type: none"> ■ ビデオ「キリンビールの環境対策」制作・配布 |
| 1997年 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 北陸工場が国内の食品業界で初めてISO14001の認証を取得(3月) ■ 「1996年度版キリンビール環境問題への取り組み」が、環境報告書のコンテストである第1回環境アクションプラン大賞の最優秀賞である環境庁長官賞を受賞(6月) ■ 1996年度の環境監査結果をもとに、パンフレット「1997年度版キリンビール環境報告書」を制作・社内外に配布(9月)(以降毎年度版を制作) | <ul style="list-style-type: none"> ■ ビール粕を利用したキノコの菌床素材「ゲンキノコ」を開発・販売 ■ ビール粕の分画プラントを滋賀工場内に設置 ■ グリーン購入を開始 ■ CO₂の排出原単位のビール業界目標を設定 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 軽量リターナブル大びんを首都圏に本格導入(3月) ■ 「容器包装リサイクル法」の本格施行にともない、ガラスびんについて再商品化委託料を申請(大半のリターナブルびんは自主回収ルートの認定を取得) ■ 材質を紙に変更した6缶パックを導入 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 高校生・中学生向け環境教育ビデオ「未来からの電子メール～環境に国境はない」を制作・配布(7月) ■ 神戸工場ピオトープを造成 |
| 1996年 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 1995年度の環境監査結果を第3回「環境報告書」にまとめ(10月)、それをもとにパンフレット「1996年度版キリンビール環境問題への取り組み」を制作・社内外に配布(12月) | <ul style="list-style-type: none"> ■ LCA手法によりビール製造関連のCO₂など温室効果ガスの排出負荷をまとめ公表 | — | <ul style="list-style-type: none"> ■ 中学生向け環境教育ビデオ「中学生のゴミ体験」を制作・配布(3月) ■ ビールびんリサイクル広告を実施(4回シリーズ) |
| 1995年 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 第4回地球環境大賞の最優秀賞である「地球環境大賞グランプリ」を受賞(4月) ■ グループ会社を含めた環境監査の結果を第2回「環境報告書」にまとめる(10月) | <ul style="list-style-type: none"> ■ 食品業界で初めて燃料電池のフィールドテストを開始 | <ul style="list-style-type: none"> ■ PETボトルのリサイクルを容易にするためベアスカップ付きボトル:耐熱圧自立型PETボトル(一体型)を採用 | <ul style="list-style-type: none"> ■ ビールびんリサイクル広告を実施(5回シリーズ) |
| 1994年 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 「キリンビール環境管理ガイドライン」を「キリンビール環境ガイドライン」に改訂 ■ 1993年度環境監査結果を「環境報告書」にまとめる(8月) | <ul style="list-style-type: none"> ■ 横浜工場他計4工場が年間を通して副産廃棄物再資源化率100%を達成 | <ul style="list-style-type: none"> ■ ビール用アルミ缶に204径缶(209径缶より26%、206径缶より18%軽量)を採用 | <ul style="list-style-type: none"> ■ キリンビール・キリンビバレッジ共同で、小学生向け環境教育ビデオ「あきらとかん太のごみ冒険」を制作・配布(4月) ■ ビールびんリサイクル広告を実施(6回シリーズ) |

| 年 | 組織・方針など 環境マネジメント | 環境保全の取り組み | 容器包装の取り組み | 社会的取り組み |
|-------|---|--------------------------------|---|---|
| 1993年 | ■各事業所ごとに「環境マネジメントシステム」を構築し、内部環境監査を実施 ■経営指針の社会貢献に「地球環境への配慮」を明示(10月) | — | ■軽量リターナブル大びん(従来品より21%軽い)を開発、北海道・函館で試験導入(5-6月) | ■栃木工場・北陸工場で環境保全林(ふるさとの森)として植樹(8月) |
| 1992年 | ■「キリンビール環境管理ガイドライン」制定(12月) | — | ■「環境に適応した包装・容器設計ガイドライン」制定(12月) | — |
| 1991年 | ■社会環境部を設置(7月) ■「キリンビール環境問題の取り組みの基本方針」制定(12月) | — | ■缶ビールにアルミ・スチールの缶材表示を開始(12月) | ■高校生向け環境教育ビデオ「裁かれるのは誰だ〜ゴミ法廷」を制作・配布(11月) |
| 1990年 | — | ■USAB嫌気性排水処理設備を千歳工場に導入(12月) | ■缶ビールのタブ散乱防止のため、リングプルタイプよりステーションタブ切替え開始(4月) | — |
| 1989年 | — | ■ビール工場の排水処理研究で日本醸造協会技術賞を受賞(9月) | — | — |
| 1985年 | — | — | ■ビール用アルミ缶に206径缶を採用 | — |
| 1984年 | — | — | ■廃棄プラスチック製通箱を原料としたプラスチックパレットを開発・導入 | — |
| 1982年 | — | — | ■ホットパック製品室素充填による缶薄肉化 | — |
| 1975年 | ■本社製造部に環境整備担当(後に環境整備課に改組)を設置 | — | ■ビール用アルミ缶に209径缶を採用 | ■環境美化ラジオキャンペーン「ちょっと気になるこの日本」を開始(〜1980年) |
| 1974年 | ■全工場・研究所に環境整備室を設置(93年に環境室に改組) | — | ■ビールびんとプラスチック製通箱の容器保証金制度を開始 | — |
| 1973年 | — | ■分別収集・廃棄物減量活動を開始 | ■清涼飲料P箱全国・全品種で導入 | ■ビール工場で空き缶回収などの環境美化活動を開始 |
| 1972年 | — | — | ■清涼飲料容器保証金制度実施 | — |
| 1966年 | — | ■活性汚泥法による排水処理設備の本格的導入 | ■横浜・川崎市への出荷をビールP箱に全面切り替え | — |
| 1965年 | — | — | ■プラスチック製ビール通い箱(P箱)を開発し、横浜・川崎市で市場テスト | — |
| 1923年 | — | ■排水処理設備を導入(神崎工場後の尼崎工場) | — | — |

外部表彰

| 年 | 表彰対象 | 表彰名 | 表彰内容 | 実施団体 |
|-------|--------------|----------------------------------|--------------------------|------------------------|
| 2020年 | キリンホールディングス | ESGファイナンス・アワード・ジャパン 環境サステナブル企業部門 | 金賞 | 環境省 |
| 2019年 | キリンホールディングス | CDPウォーターセキュリティ | Aリスト(4年連続) | CDP |
| 2019年 | キリンホールディングス | CDP気候変動 | Aリスト | CDP |
| 2019年 | キリンホールディングス | CDPサプライヤー・エンゲージメント・レーティング | リーダー・ボード | CDP |
| 2018年 | キリンホールディングス | CDPサプライヤー・エンゲージメント・レーティング | リーダー・ボード | CDP |
| 2018年 | キリンホールディングス | 平成29年度「青少年の体験活動推進企業表彰」 | 審査委員会奨励賞(大企業部門) | 文部科学省 |
| 2018年 | キリンホールディングス | 第8回「キャリア教育アワード」 | 奨励賞 | 経済産業省 |
| 2018年 | キリンホールディングス | CDPウォーターセキュリティ | Aリスト(3年連続) | CDP |
| 2018年 | キリンホールディングス | CDP気候変動 | A- | CDP |
| 2017年 | キリンホールディングス | 第6回いきものにぎわい企業活動コンテスト | 審査員特別賞 | いきものにぎわい企業活動コンテスト実行委員会 |
| 2017年 | キリンホールディングス | CDP気候変動 | Aリスト(4年連続) | CDP |
| 2017年 | キリンホールディングス | CDP水 | Aリスト(2年連続) | CDP |
| 2017年 | キリンホールディングス | 第26回地球環境大賞 | フジサンケイグループ賞 | フジサンケイグループ |
| 2017年 | キリンビール(共同配送) | 第18回物流環境大賞 | 物流環境大賞 | 一般社団法人 日本物流団体連合会 |
| 2017年 | キリンビール(共同配送) | 平成29年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰 | 国土交通大臣表彰 | 国土交通省 |
| 2016年 | キリンホールディングス | CDP気候変動 | Aリスト(3年連続) | CDP |
| 2016年 | キリンホールディングス | CDP水 | Aリスト | CDP |
| 2016年 | キリンホールディングス | 企業の温暖化対策ランキング食品業種 | 1位 | 世界自然保護基金日本委員会(WWFジャパン) |
| 2016年 | キリンホールディングス | ベスト長期目標賞 | | 低炭素杯2016 |
| 2015年 | キリンホールディングス | CDP気候変動 | CDLI、Aリスト | CDP |
| 2014年 | キリンホールディングス | CDP気候変動 | CDLIおよびCPLI、ピバレッジ部門でAリスト | CDP |
| 2014年 | キリンホールディングス | 生物多様性勝手にアワード | 百獣の王賞(最高位) | 世界自然保護基金日本委員会(WWFジャパン) |
| 2012年 | キリンホールディングス | CDP Japan500 | CDLI | CDP |
| 2011年 | キリンホールディングス | CDP Japan500 | 1位獲得 | CDP |
| 2010年 | キリンホールディングス | CDP Global500 | 日本2位 | CDP |
| 2007年 | キリンホールディングス | クールビズエグゼクティブ賞 | | クールビズ推進協議会 |

環境報告書の表彰

| 年 | 表彰対象 | 表彰名 | 表彰内容 | 実施団体 |
|-------|---|-----------------------|--|----------------------------------|
| 2020年 | 環境報告書 [キリングループ環境報告書2019] | 第23回 環境コミュニケーション大賞 | 審査委員会特別優秀賞 | 環境省 財団法人地球・人間環境フォーラム |
| 2018年 | 環境報告書 [キリングループ環境報告書2018] | 第22回 環境コミュニケーション大賞 | 環境報告優秀賞 (地球・人間環境フォーラム 理事長賞) | 環境省 財団法人地球・人間環境フォーラム |
| 2017年 | 環境報告書 [キリングループ環境報告書2017] | 第21回 環境コミュニケーション大賞 | 地球温暖化対策報告優秀賞 (地球・人間環境フォーラム 理事長賞) | 環境省 財団法人地球・人間環境フォーラム |
| 2016年 | 環境報告書 [キリングループ環境報告書2016] | 第20回 環境コミュニケーション大賞 | 生物多様性報告特別優秀賞 (地球・人間環境フォーラム 理事長賞) | 環境省 (財)地球・人間環境フォーラム |
| 2015年 | 環境報告書 [キリングループ環境報告書2015] | 第19回 環境コミュニケーション大賞 | 環境報告優秀賞 (地球・人間環境フォーラム 理事長賞) | 環境省 (財)地球・人間環境フォーラム |
| 2014年 | 環境報告書 [キリングループ環境報告書2014] | 第18回 環境コミュニケーション大賞 | 環境報告大賞 (環境大臣賞) | 環境省 (財)地球・人間環境フォーラム |
| 2013年 | 環境報告書 [キリングループ環境報告書2013] | 第17回 環境コミュニケーション大賞 | 地球温暖化対策報告 大賞(環境大臣賞) | 環境省 (財)地球・人間環境フォーラム |
| 2011年 | サステナビリティレポート [キリングループ サステナビリティ レポート 2011] | 第15回 環境コミュニケーション大賞 | 環境報告優秀賞 | 環境省 (財)地球・人間環境フォーラム |
| 2005年 | 環境報告書 [キリンビール環境報告書2004年版] | 第8回環境報告書賞 | 継続優秀賞 | (株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム |
| 2004年 | 環境報告書 [キリンビール環境報告書2003年版] | 第7回環境報告書賞 | 継続優秀賞 | (株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム |
| 2003年 | 環境報告書 [キリンビール環境報告書2002年版] | 第6回環境報告書賞 | 継続優秀賞 | (株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム |
| 2003年 | ホームページ [キリンビールの環境への取り組み] | 第3回みんなで選ぶ エコWEB大賞 | 特別審査員賞 | エコロジーションフォニー |
| 2003年 | 環境報告書 [キリンビール環境報告書2002年版] | 第6回環境レポート大賞 | 優秀賞 (環境報告マイスター賞) | (財)地球・人間環境フォーラム (社)全国環境保全推進連合 |
| 2002年 | 環境報告書 [キリンビール環境報告書2001年版] | 第5回環境報告書賞 | 優秀賞 | (株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム |
| 2001年 | 環境報告書 [キリンビール環境報告書2001年版] | 第5回環境レポート大賞 | 優秀賞 | (財)地球・人間環境フォーラム |
| 2001年 | 環境報告書 [2000年版キリンビール環境報告書] | 第4回環境報告書賞 | 優秀賞 | (株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム |
| 2000年 | 環境報告書 [2000年版キリンビール環境報告書] | 第4回環境レポート大賞 | 優秀賞 | (財)地球・人間環境フォーラム (社)全国環境保全推進連合 |
| 2000年 | 環境報告書 [1999年版キリンビール環境報告書] | 第3回環境報告書賞 | 優良賞 | (株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム |
| 1999年 | 環境報告書 [1999年版キリンビール環境報告書] | 第3回環境レポート大賞 | 大賞 | (財)地球・人間環境フォーラム (社)全国環境保全推進連合 |

| 年 | 表彰対象 | 表彰名 | 表彰内容 | 実施団体 |
|-------|--|--------------|------------|---------------------------------|
| 1999年 | 環境報告書 [1998年版キリンビール環境報告書] | 第2回環境報告書賞 | 優良賞 | (株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム |
| 1998年 | 環境報告書 [1997年版キリンビール環境報告書] | 第1回環境報告書賞 | 優秀賞 特別賞 | (株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム |
| 1997年 | 環境報告書 [1996年度版キリンビール環境問題への 取り組み] | 環境アクションプラン大賞 | 環境庁長官賞 | (社)全国環境保全推進連合 |

容器包装での表彰

| 年 | 表彰対象 | 表彰名 | 表彰内容 | 実施団体 |
|-------|-------------------------|-------------------------------|---------------------------|-----------------|
| 2020年 | R100 PETボトル | ワールドスターコンテスト2020 | ワールドスター賞 | 世界包装機構 (WPO) |
| 2019年 | R100 PETボトル | 2019日本パッケージングコンテ スト | ジャパンスター (日本包装技術 協会会長賞) | 公益社団法人 日本包装技術協会 |
| 2018年 | 国産最軽量ビール中びん (リターナブル) | ワールドスター2018コンテスト | ワールドスター賞 | 世界包装機構 (WPO) |
| 2018年 | 国産最軽量ビール中びん (リターナブル) | 第14回ガラスびんアワード | 機能・環境賞 | 日本ガラスびん協会 |
| 2017年 | 国産最軽量アルミ缶 | 第41回木下賞 | 改善合理化部門 | 公益社団法人 日本包装技術協会 |
| 2017年 | 国産最軽量 2L PETボトル | ワールドスター2016コンテスト | ワールドスター賞 | 世界包装機構 (WPO) |
| 2017年 | 国産最軽量 2L PETボトル | アジアスター2015コンテスト | アジアスター賞 | アジア包装連盟 |
| 2016年 | NEWペコロジーボトル | 第40回木下賞 | 改善合理化部門 | 公益社団法人 日本包装技術協会 |
| 2015年 | 国産最軽量 2L PETボトル | ワールドスター2015コンテスト | ワールドスター賞 | 世界包装機構 (WPO) |
| 2013年 | GRAND KIRIN THE AROMA | 2013日本パッケージングコンテ スト (第35回) | 社団法人 日本グラフィックデザ イナー協会賞 | 公益社団法人 日本包装技術協会 |
| 2013年 | GRAND KIRIN THE AROMA | ワールドスター2013コンテスト | ワールドスター賞 | 世界包装機構 (WPO) |
| 2013年 | GRAND KIRIN THE AROMA | アジアスター2013コンテスト | アジアスター賞 | アジア包装連盟 |
| 2012年 | GRAND KIRIN | ガラスびんアワード2012 | 機能優秀賞 | 日本ガラスびん協会 |
| 2010年 | NEWペコロジーボトル | サステナビリティ賞 | 金賞 | 世界包装機構 (WPO) |
| 2010年 | NEWペコロジーボトル | ワールドスター2010コンテスト | ワールドスター賞 (飲料部門) | 世界包装機構 (WPO) |
| 2010年 | NEWペコロジーボトル | アジアスター2010コンテスト | アジアスター賞 (Ecoパケッ ジ部門) | アジア包装連盟 |
| 2010年 | NEWペコロジーボトル | 2010日本パッケージングコンテ スト | 適正包装賞 | 公益社団法人 日本包装技術協会 |

| 年 | 表彰対象 | 表彰名 | 表彰内容 | 実施団体 |
|-------|---------------------------------------|-----------------------------|----------------------------|----------------|
| 2008年 | 焼酎用紙容器 麒麟本格焼酎 タルチョ | 第47回ジャパンパッケージング コンペティション | 経済産業大臣賞 (最高位) | 社団法人 日本印刷産業連合会 |
| 2007年 | ビール用軽量リターナブル大びん | 平成18年度 容器包装3R推進 | 環境大臣賞 | 環境省 |
| 2007年 | 焼酎用紙容器 麒麟本格焼酎 タルチョ | 日本パッケージングコンテスト | グッドパッケージング賞 (飲料 包装部) 入選 | 社団法人 日本包装技術協会 |
| 2007年 | 麒麟麦焼酎ピュアブルー | 第46回ジャパンパッケージング コンペティション | 経済産業大臣賞 (最高位) | 社団法人 日本印刷産業連合会 |
| 2005年 | キリン・キリンビバレッジ軽量2L PETボトルの開発 | 第29回木下賞 | 研究開発部門 | 社団法人 日本包装技術協会 |
| 2003年 | 「キリン極生」による低環境負荷 のアルミ缶 (aTULC) の実用化 | 第27回木下賞 | 研究開発部門 | 社団法人 日本包装技術協会 |
| 2002年 | 「キリンチューハイ氷結果汁」 (ア ルミダイヤカット缶) の商品化 | 第26回木下賞 | 研究開発部門 | 社団法人 日本包装技術協会 |
| 2002年 | 「キリン極生」 | ワールドスターコンテスト | ワールドスター賞 | 世界包装機構 (WPO) |
| 2001年 | KB (キリンケーピー) | ワールドスターコンテスト | ワールドスター賞 | 世界包装機構 (WPO) |
| 2000年 | クリアブルー | ワールドスターコンテスト | ワールドスター賞 | 世界包装機構 (WPO) |
| 1994年 | 軽量リターナブルピンの開発 | 第18回木下賞 | 研究開発部門 | 社団法人 日本包装技術協会 |
| 1987年 | ビールラベルの品質改善に伴う紙 蒸着ラベルの利用 | 第11回木下賞 | 改善・合理化部門 | 社団法人 日本包装技術協会 |

環境広告表彰

| 年 | 表彰対象 | 表彰名 | 表彰内容 | 実施団体 |
|-------|--------------------------|------------------------|------------|---------------------------|
| 2012年 | キリンビール出展ブース | エコ&デザインブース大賞 | 最優秀賞 | エコプロダクツ2012 |
| 2006年 | エコジロー環境広告 (エコどこ、エコここ) | 第36回フジサンケイグループ 広告大賞 | 雑誌優秀賞 | フジサンケイグループ |
| 2005年 | エコジロー環境広告 | オレンジページ広告大賞 | 審査員特別賞 | 株式会社 オレンジページ |
| 2004年 | ホームページ (環境への取り組み) | 環境goo大賞 | 優秀賞-環境教育 | 環境goo |
| 2003年 | ホームページ (環境への取り組み) | 環境goo大賞 | 優秀賞-総合 | 環境goo |
| 2003年 | エコジロー環境広告 | 環境広告コンクール | 雑誌部門 環境大臣賞 | NPO法人地域交流センター/日本 経済新聞社 |
| 2003年 | エコジロー環境広告 | 消費者のためにあった広告コンクール | 雑誌L部門 金賞 | 社団法人 日本広告主協会 |
| 2003年 | エコジロー環境広告 | 消費者のためにあった広告コンクール | 雑誌L部門 金賞 | 社団法人 日本広告主協会 |

| 年 | 表彰対象 | 表彰名 | 表彰内容 | 実施団体 |
|-------|--------------|-------------------|------------------------|---------------------------|
| 2003年 | エコジローの環境テーブル | 東京インタラクティブアワード | ビヨンド広告部門 入賞 | インターネット広告推進協議会 |
| 2002年 | エコジロー環境広告 | 消費者のためにあった広告コンクール | 雑誌広告部門 金賞 新聞広告部門 銅賞 | 社団法人 日本広告主協会 |
| 2001年 | エコジロー環境広告 | 消費者のためにあった広告コンクール | 雑誌広告部門 銀賞 | 社団法人 日本広告主協会 |
| 2000年 | エコジロー環境広告 | 環境広告コンクール | 大賞 | NPO法人地域交流センター/日本 経済新聞社 |
| 2000年 | エコジロー環境広告 | 消費者のためにあった広告コンクール | 雑誌広告部門 金賞 | 社団法人 日本広告主協会 |
| 2000年 | エコジロー環境広告 | 日経広告賞 | 優秀賞 | 日本経済新聞社 |
| 2000年 | エコジロー環境広告 | 日本雑誌広告賞 | 銀賞 | 社団法人 日本雑誌広告協会 |

事業所表彰

| 年 | 表彰対象 | 表彰名 | 表彰内容 | 実施団体 |
|-------|----------------------|-----------------------------------|------------------------------|---------------------------|
| 2018年 | 協和キリン高崎工場 | 群馬県環境賞 | 環境功績賞 | 群馬県 |
| 2017年 | キリン パッケージング 技術研究所 | 平成29年度リデュース・リユース・リ サイクル推進功労者表彰 | リデュース・リユース・リサイクル推進 協議会会長賞 | リデュース・リユース・リサイクル推進 協議会 |
| 2016年 | キリンビール | 容器包装簡素化大賞2016 | 特別賞 | 北海道容器包装の 簡素化を進める連絡会 |
| 2016年 | メルシャン藤沢工場 | 海岸美化活動表彰 | 地域における 永年の海外美化活動への貢献 | 公益財団法人 かながわ海岸美化財団 |
| 2014年 | ライオン | ニュージーランド持続可能な ビジネスネットワーク賞 | エネルギー管理賞 | サステナブル ビジネスネットワーク |
| 2014年 | ベトナムキリンビバレッジ | ピンズン省環境表彰 | - | ピンズン省 |
| 2013年 | 信州ビバレッジ | 環境保全対策優良事業所表彰 | - | 長野県 |
| 2013年 | 信州ビバレッジ | 信州豊かな環境づくり県民会議表彰 | - | 長野県 |
| 2013年 | ベトナムキリンビバレッジ | ピンズン省環境表彰 | 3位 | ピンズン省 |
| 2012年 | キリンビール 横浜工場 | かながわ地球環境賞 | かながわ地球環境保全推進会表彰 | かながわ地球環境保全推進会、 神奈川県 |
| 2010年 | キリンビール 滋賀工場 | 優良事業所環境 パートナーシップ部門 | 公益社団法人 滋賀県環境保全協会会長表彰 | 公益社団法人 滋賀県環境保全協会 |
| 2009年 | 小岩井乳業 小岩井工場 | 食品産業CO ₂ 削減大賞 | 優良賞 | (株)日本総合研究所 |
| 2009年 | キリンビール | ゼロエミッション啓発 | 感謝状 | 国連大学 ゼロエミッションフォーラム |

| 年 | 表彰対象 | 表彰名 | 表彰内容 | 実施団体 |
|-------|----------------|------------------------------------|------------------------------|----------------------------------|
| 2009年 | キリンビール 神戸工場 | エネルギー環境教育情報センター 広報施設表彰 | 運営委員長奨励賞 | 財団法人社会経済生産性本部 エネルギー環境教育財団センター |
| 2009年 | キリンビール 岡山工場 | 平成20年度岡山市事業系ごみ減量 化・資源化推進優良事業者表彰 | 最優秀賞 | 岡山市 |
| 2008年 | キリンビール 横浜工場 | 平成20年横浜環境行動賞 | 分別優良事業所 | 横浜市資源循環局事業系対策課 |
| 2008年 | キリンビール 神戸工場 | 第28回緑の都市賞 | 都市緑化基金会長賞 | 財団法人都市緑化基金 |
| 2008年 | キリンビール 仙台工場 | 海をきれいにするための 一般協力者の奉仕活動表彰 | 国土交通大臣賞 | 国土交通省 |
| 2008年 | キリンビール 取手工場 | 平成20年 「地球にやさしい企業表彰」 | 環境マネジメント | 茨城県 |
| 2008年 | キリンビール 北陸工場 | いしかわ森林環境功労者表彰 | 石川県知事賞 | 石川県 |
| 2008年 | キリンビール 神戸工場 | 平成19年度 兵庫県環境にやさしい事業者賞 | 優秀賞 | 兵庫県環境政策課 |
| 2007年 | キリンビール 横浜工場 | 平成19年度横浜環境行動賞 | 分別優良事業所 | 横浜市 |
| 2007年 | キリンビール 神戸工場 | 地球温暖化防止活動 知恵の環づくり特別賞 | - | 兵庫県 |
| 2007年 | キリンビール 仙台工場 | 自然エネルギー等 導入促進部門大賞 | 宮城県知事表彰 | 宮城県 |
| 2007年 | キリンビール 福岡工場 | エコ実践者活動 | 保険福祉環境事務所長表彰 | 福岡県 |
| 2006年 | キリンビール 神戸工場 | 地球温暖化防止活動環境大臣賞 | - | 環境省地球環境局 |
| 2006年 | キリンビール 福岡工場 | 高圧ガス保安 | 経済産業大臣 | 高圧ガス保安協会 |
| 2006年 | キリンビール 横浜工場 | 環境保全奨励賞 | コージェネレーションシステム | 日本コージェネレーションシステム |
| 2005年 | キリンビール 横浜工場 | 子ども省エネ大作戦2005 | 横浜市主催「子ども省エネ大作戦 2005」への協力 | 特定非営利活動法人 国連WFP協会 |
| 2005年 | キリンビール 横浜工場 | 環境管理事業所認定 | 横浜市より環境管理事業所として認定 | 横浜市環境創造局長 |
| 2003年 | キリンビール 岡山工場 | 環境おかやま大賞 | 環境おかやま大賞 | 岡山県 |
| 2003年 | キリンビール 神戸工場 | 神戸市環境功労賞 | 神戸市環境功労賞 | 神戸市 |
| 2003年 | キリンビール | 第12回地球環境大賞 | 経済産業大臣賞 | (財)世界自然保護基金日本委員会 (WWFジャパン) |
| 2001年 | キリンビール 北陸工場 | 平成13年度いしかわグリーン企業 | 知事表彰 | 石川県 |
| 2001年 | キリンビール 横浜工場 | かながわ地球環境賞 | 神奈川県知事表彰 | 神奈川県、 かながわ地球環境保全推進会議 |

| 年 | 表彰対象 | 表彰名 | 表彰内容 | 実施団体 |
|-------|--------|---------------|---------|-------------------------------|
| 1997年 | キリンビール | 第6回日食・環境資源協力賞 | 環境資源協力賞 | 日本食糧新聞社 |
| 1995年 | キリンビール | 第4回地球環境大賞 | 大賞 | (財)世界自然保護基金日本委員会 (WWFジャパン) |

緑化表彰

| 年 | 表彰対象 | 表彰名 | 表彰内容 | 実施団体 |
|-------|-------------------------|------------------------|----------------------------|--------------|
| 2019年 | キリンビール横浜工場 | 第9回横浜・みち・デザイン賞 | まちなみ景観部門 | 横浜市 |
| 2019年 | キリンビール横浜工場 | 全国みどりの工場大賞 | 関東経済産業局長賞 | 日本緑化センター |
| 2019年 | キリンビール横浜工場 | 第18回 屋上・壁面緑化技術コンクール | 国土交通大臣賞 | 都市緑化機構 |
| 2018年 | キリンビール横浜工場 | 第37回 工場緑化推進全国大会 | 日本緑化センター会長賞 | 日本緑化センター |
| 2018年 | キリンビール神戸工場 | 第12回「みどりの式典」 | 平成30年度緑化推進運動功労者 内閣総理大臣賞 | 内閣府 |
| 2018年 | 協和発酵バイオ山口事業所防府 | 防府市緑のカーテンコンテスト | 優秀賞 | 防府市 |
| 2016年 | キリンビール横浜工場 | みどりの社会貢献賞 | 第4回みどりの社会貢献賞 | 公益財団法人都市緑化機構 |
| 2016年 | キリンビール横浜工場 | 第36回緑の都市賞 | 国土交通大臣賞 | 公益財団法人都市緑化機構 |
| 2016年 | 協和発酵バイオ山口事業所防府 | 防府市緑のカーテンコンテスト | 優秀賞 | 防府市 |
| 2014年 | 協和発酵キリン富士工場 | 長泉町環境美化功労者表彰 | 団体の部 | 長泉町 |
| 2014年 | 協和発酵バイオ山口事業所防府 | 防府市緑のカーテンコンテスト | 優秀賞 | 防府市 |
| 2014年 | 協和発酵バイオ山口事業所宇部 | 宇部市緑のカーテンコンテスト | 優秀賞 | 宇部市 |
| 2013年 | キリンビール 仙台工場 | 緑綬褒章 | 地域における永年の 緑化・美化活動 | - |
| 2011年 | キリンディスティラリー 富士御殿場蒸溜所 | 平成23年度緑化推進運動功労者 | 内閣総理大臣表彰 | 緑化推進連絡会議 |
| 2009年 | 協和発酵キリン高崎工場 | 緑化優良工場 | 日本緑化センター会長賞 | (財)日本緑化センター |
| 2009年 | キリンビール神戸工場 | 緑化優良工場 | 緑化優良工場等 経済産業大臣賞 | (財)日本緑化センター |
| 2009年 | キリンビール北陸工場 | 白山市緑と花のまちなみ賞 | 事業所の部優秀賞 | 石川県白山市 |
| 2008年 | キリンビール北陸工場 | いしかわ森林環境功労者表彰 | 企業部門 県知事賞 | 石川県 |
| 2007年 | キリンビール福岡工場 | 緑化優良工場 | 緑化優良工場等 経済産業大臣賞 | (財)日本緑化センター |
| 2007年 | キリンビール北陸工場 | 白山市緑と花のまちなみ賞 | 事業所の部優秀賞 | 石川県白山市 |
| 2007年 | キリンビール北陸工場 | 緑化優良工場 | 緑化優良工場等 経済産業大臣賞 | (財)日本緑化センター |

| 年 | 表彰対象 | 表彰名 | 表彰内容 | 実施団体 |
|-------|--|----------------------------|----------------|--------------|
| 2006年 | キリンビール北陸工場 | 白山市緑と花のまちなみ賞 | 事業所の部優秀賞 | 石川県白山市 |
| 2006年 | キリンビール滋賀工場 | 平成18年度緑化優良工場表彰 | 会長賞 | (財)日本緑化センター |
| 2005年 | キリンビール北陸工場 | 緑と花のまちなみ賞 | 事業所の部 優秀賞 | 石川県白山市 |
| 2004年 | キリンビール神戸工場 | 平成16年度緑化優良工場 近畿経済産業局長表彰 | 緑化優良工場 | (財)日本緑化センター |
| 2004年 | キリンビール北陸工場 | 緑と花のまちなみ賞 | 事業所の部奨励賞 | 松任市 |
| 2004年 | キリンビール北陸工場 | 緑化優良表彰 | 中部経済産業局長賞 | 中部経済産業局 |
| 2003年 | キリンビール北陸工場 | 平成15年度緑と花のまちなみ賞 | 事業所の部 奨励賞 | 松任市 |
| 2003年 | キリンビール北陸工場 | 平成15年度緑と花のまちなみ賞 | 事業所の部 優秀賞 | 松任市 |
| 2001年 | キリンビール北陸工場 | 平成13年度 松任市緑と花のまちなみ賞 | 事業所の部 奨励賞 | 松任市 |
| 2001年 | キリンビール北陸工場 | 緑化優良表彰工場 | 日本緑化センター会長賞 | (財)日本緑化センター |
| 2001年 | キリン・シーグラム御殿場工場 (現キリンディスティラリー富士 御殿場蒸溜所) | 緑化優良工場 | 緑化優良工場等経済産業大臣賞 | (財)日本緑化センター |
| 2000年 | キリンビール神戸工場 | 緑化優良表彰工場 | 日本緑化センター会長賞 | (財)日本緑化センター |
| 1999年 | キリンビール福岡工場 | 水源の森基金 | 感謝状 | (財)福岡県水源の森基金 |
| 1999年 | キリンビール北陸工場 | 平成11年度 松任市緑と花のまちなみ賞 | 事業所の部 奨励賞 | 松任市 |
| 1998年 | キリンビール北陸工場 | 緑化優良表彰工場 | 会長奨励賞 | (財)日本緑化センター |
| 1998年 | キリンビール栃木工場 | 緑化優良表彰工場 | 通商産業局長賞 | (財)日本緑化センター |

リサイクル表彰

| 年 | 表彰対象 | 表彰名 | 表彰内容 | 実施団体 |
|-------|-------------|---------------------------|------------|-----------------------|
| 2019年 | キリンビール横浜工場 | 平成31年度横浜環境行動賞 | 3R活動優良事業所 | 横浜市 |
| 2018年 | キリンビール横浜工場 | 平成30年度横浜環境行動賞 | 3R活動優良事業所 | 横浜市 |
| 2017年 | キリンビール横浜工場 | 平成29年度横浜環境行動賞 | 3R活動優良事業所 | 横浜市 |
| 2016年 | キリンビール横浜工場 | 平成28年度横浜環境行動賞 | 3R活動優良事業所 | 横浜市 |
| 2015年 | キリンビール横浜工場 | 平成27年度横浜環境行動賞 | 3R活動優良事業所 | 横浜市 |
| 2014年 | キリンビール横浜工場 | 平成26年度横浜環境行動賞 | 3R活動優良事業所 | 横浜市 |
| 2013年 | キリンビール横浜工場 | 平成25年度横浜環境行動賞 | 3R活動優良事業所 | 横浜市 |
| 2011年 | キリンビール名古屋工場 | 平成23年度3R推進功労者等表彰 | 3R推進協議会会長賞 | 3R推進協議会 |
| 2011年 | メルシャン | 平成23年度3R推進功労者等表彰 | 3R推進協議会会長賞 | 3R推進協議会 |
| 2010年 | キリンビール横浜工場 | 平成22年度横浜環境行動賞 | 分別優良事業所 | 横浜市 |
| 2009年 | キリンビール岡山工場 | 平成21年度3R推進功労者等表彰 | 3R推進協議会会長賞 | 3R推進協議会 |
| 2009年 | キリンビール横浜工場 | 平成21年度横浜環境行動賞 | 分別優良事業所 | 横浜市 |
| 2008年 | キリンビール横浜工場 | 平成20年度横浜環境行動賞 | 分別優良事業所 | 横浜市 |
| 2008年 | キリンビール神戸工場 | 平成21年度3R推進功労者等表彰 | 財務大臣賞 | 3R推進協議会 |
| 2007年 | キリンビール横浜工場 | 平成19年度横浜環境行動賞 | 分別優良事業所 | 横浜市 |
| 2006年 | キリンビール取手工場 | 茨城県リサイクル優良事業所 | 茨城県知事 | 茨城県 廃棄物再資源化指導センター |
| 2005年 | キリンビール岡山工場 | エコ事業所認定工場 (ゼロエミッション部門) | — | 岡山県 |
| 2002年 | キリンビール滋賀工場 | リサイクル推進協議会会長賞 | 会長賞 | 3R推進協議会 |
| 2001年 | キリンビール神戸工場 | リサイクル推進協議会会長賞 | 会長賞 | 3R推進協議会 |
| 2001年 | キリンビール横浜工場 | 神奈川県廃棄物自主管理調整会議 | 優秀賞 | 神奈川県、横浜市、川崎市、 横須賀市 |
| 1998年 | キリンビール | 第27回食品産業功労賞 | 資材・機械・設備部門 | 食品産業新聞社 |

省エネルギー表彰

| 年 | 表彰対象 | 表彰名 | 表彰内容 | 実施団体 |
|-------|-------------|-------------------------------------|--|-----------------|
| 2017年 | キリンビール仙台工場 | 平成28年度エネルギー管理優良事業者東北経済産業局長表彰 | 熱交換器およびヒートポンプ導入により、排水水の昇温に必要な蒸気使用量を削減、高効率照明への更新により電力使用量を削減 | 東北経済産業局 |
| 2016年 | 信州ビバレッジ | 平成27年度エネルギー管理優良事業所等中部地方電気使用合理化委員長表彰 | 電力および熱利用設備の運用見直しによるエネルギー削減 | 中部地方電気使用合理化委員会 |
| 2013年 | キリン | 平成25年度省エネ大賞 | 資源エネルギー庁長官賞 | 省エネルギーセンター |
| 2010年 | 小岩井乳業 那須工場 | 平成21年度エネルギー管理功績者 | 関東経済産業局賞 | 関東経済産業局 |
| 2010年 | キリンビール名古屋工場 | エネルギー管理優良事業者 | 中部経済産業局長表彰 | 中部地方電気使用合理化委員会 |
| 2009年 | キリンビール滋賀工場 | 平成21年優良ボイラー技士ボイラー協会会長表彰 | 優れたボイラー技師として、永年に亘る業務に対する功績の評価 | 日本ボイラー協会 |
| 2009年 | 小岩井乳業那須工場 | 平成20年度関東地区電気使用合理化委員会委員長賞 | 功績者賞 | 関東地区電気使用合理化委員会 |
| 2008年 | キリンビール岡山工場 | 平成20年省エネルギー優秀事例全国大会 | 中国経済産業局長賞 | 財団法人 省エネルギーセンター |
| 2006年 | キリンビール仙台工場 | 平成18年優良ボイラー技士ボイラー協会会長表彰 | 優れたボイラー技師として、永年に亘る業務に対する功績の評価 | 日本ボイラー協会 |
| 2006年 | キリンビール北陸工場 | エネルギー管理（電気部門）表彰 | — | 中部経済産業局 |
| 2006年 | キリンビール神戸工場 | ひょうごバイオマスecoモデル登録証授与賞 | ビール工場の有機物性廃水処理における発生バイオガスによるCO ₂ エネレーション | 兵庫県農林水産部農政企画局 |
| 2005年 | キリンビール北陸工場 | 省エネルギー優秀事例 | 会長賞 | 省エネルギーセンター |
| 2004年 | キリンビール神戸工場 | 省エネルギー実施優秀事例 資源エネルギー庁長官賞 | 消化ガスCO ₂ エネレーションシステムと生物脱硫システムによる省エネ対策 | 省エネルギーセンター |
| 2004年 | キリンビール北陸工場 | ウェステック大賞2004 | 事業活動部門賞 | ウェステック実行委員会 |
| 2004年 | キリンビール北陸工場 | 省エネルギー優秀事例 | 排水処理ブロウとブライン冷凍機の電力量削減の取り組み | 省エネルギーセンター |
| 2003年 | キリンビール千歳工場 | エネルギー電気管理優良工場 | 資源エネルギー庁長官賞 | 経済産業省 |
| 2003年 | キリンビール神戸工場 | 省エネルギーセンター優良賞 | 全員参加による省エネ推進 | 省エネルギーセンター |
| 2002年 | キリンビール神戸工場 | 第3回あおぞら大賞 | 兵庫県大気環境保全連絡協議会会長賞 | 兵庫県大気環境保全連絡協議会 |
| 2002年 | キリンビール神戸工場 | 平成13年度エネルギー管理優良工場 | 近畿経済産業局長表彰 | 近畿経済産業局 |

| 年 | 表彰対象 | 表彰名 | 表彰内容 | 実施団体 |
|-------|------------|-------------------|---------|--------------------|
| 2001年 | キリンビール神戸工場 | エネルギー実施優秀事例グループ | 局長賞 | — |
| 2001年 | キリンビール神戸工場 | エネルギー管理優良工場（熱部門） | 局長賞 | 省エネルギーセンター 近畿経済産業局 |
| 2000年 | キリンビール岡山工場 | エネルギー管理優良工場（熱部門） | 局長表彰 | 中国通産局 |
| 2000年 | キリンビール岡山工場 | エネルギー管理功労者（電気部門） | 局長表彰 | 中国通産局 |
| 2000年 | キリンビール千歳工場 | エネルギー管理優良工場（電気部門） | 通商産業局長賞 | 通商産業省 |
| 2000年 | キリンビール北陸工場 | エネルギー管理優良工場（電気部門） | 通商産業大臣賞 | 通商産業省 |
| 1998年 | キリンビール京都工場 | エネルギー管理優良工場（電気部門） | 通商産業局長賞 | 通商産業省 |

地球温暖化防止表彰

| 年 | 表彰対象 | 表彰名 | 表彰内容 | 実施団体 |
|-------|-------------------|--------------------------------|-----------------|-------------------------------|
| 2017年 | キリンビール滋賀工場 | 平成29年度滋賀県低炭素社会づくり賞 | — | 滋賀県 |
| 2013年 | キリンビール横浜工場 | 地球温暖化防止活動環境大臣賞 | 環境教育活動部門 | 環境省 |
| 2011年 | キリンビバレッジ 湘南工場 | 平成23年度神奈川県環境保全（大気・水・土壌関係）功労者表彰 | — | 神奈川県 |
| 2010年 | キリンビール横浜工場 | 第一回 かながわ地球温暖化防止対策大賞 | 温室効果ガス削減実績部門 | 神奈川県 |
| 2009年 | 協和発酵バイオ 山口事業所(宇部) | 山口県環境生活功労者知事表彰（地球温暖化対策優良事業所） | 知事表彰 | 山口県 |
| 2009年 | キリンビール神戸工場 | エネルギー環境教育情報センター表彰 | 運営委員長奨励賞 | (財)社会経済生産性本部・エネルギー環境教育情報センター |
| 2009年 | キリンビール福岡工場 | 平成20年度地球温暖化防止環境大臣表彰 | — | 環境省 |
| 2008年 | キリンビール神戸工場 | 地球温暖化防止活動 知恵の環づくり表彰 | 敢闘賞 | 兵庫県地球温暖化防止活動推進センター・ひょうご環境創造協会 |
| 2006年 | キリンビール神戸工場 | 地球温暖化防止活動環境大臣賞 | 温室効果ガスの排出低減に対して | 環境省地球環境局 |
| 1998年 | キリンビール生産部門 | 環境保全功労者等表彰 | 地球温暖化防止部門 | 環境庁 |

その他の情報開示

商品を通じた環境情報開示

| 対象名 | 開示内容 |
|----------------------|---|
| エコレール | 2006年にはキリンビバレッジが、2010年にはキリンビールが、それぞれ鉄道貨物輸送を活用し地球環境問題に積極的に取り組む企業として、国土交通省が推進する「エコレールマーク」認定企業に選ばれました。 |
| カーボンフットプリント | キリンビールは、2008年からビール業界とともにカーボンフットプリントについて取り組みを開始しました。ビール類の算定ルールとなるPCR(Product Category Rule)は2011年2月に認定され、2013年12月に改訂されました。 |
| レインフォレスト・アライアンス認証ラベル | 2015年3月に「キリン 午後の紅茶 ストレートティー」500ml紙パックにレインフォレスト・アライアンス認証ラベルを表示して以降、ゲールトップ「午後の紅茶」の紙パックには表示を継続しています。 |
| FSC認証ラベル | キリンビール、キリンビバレッジ(トピカーナ含む)の紙容器の多くに、お客様に森林を守ることの大切さを理解いただくために、FSC認証ラベルを付けています。メルシャンの紙容器やサンライズ・ブランドのワインの一部にも付けています。 |
| オーガニックワイン | メルシャンでは、ユーロリーフ、エコサート、ピオディパン、ピオアグリサート、ソヒサートなどの「オーガニック認証」を受けているワインを販売しています。 |

投資家への情報開示

| 対象名 | 開示内容 |
|--------------|---|
| 各種アンケート | 各種アンケートなどを通じて環境に関する情報を開示しています。2019年は以下のような外部評価を受けています。(詳しくは→P.23) <ul style="list-style-type: none"> ● CDP気候変動Aリスト ● CDP水セキュリティAリスト ● CDPサプライヤー・エンゲージメント・リーダー・ボード ● ESGファイナンス・アワード・ジャパン・金賞 ● 日経「SDGs経営」調査2019「SDGs経営」総合ランキングで最高位「★★★★★」(偏差値70以上) ● FTSE4Good Index ● MSCIジャパンESGセレクト・リーダー指数 ● S&P/JPX Carbon Efficient Index ● SNAMサステナビリティ・インデックス |
| 各種レポート | 以下のような投資家向け各種レポートでも環境に関する情報を開示しています。(詳しくは→P.3) <ul style="list-style-type: none"> ● KIRIN CSV REPORT(統合報告書) ● キリングループ環境報告書 ● 協和キリン・アニュアルレポート |
| 各種サイト | 以下のようなサイトでも環境に関する情報を開示しています。(詳しくは→P.3) <ul style="list-style-type: none"> ● キリンホールディングス社会との共有価値(CSV)サイト ● キリンホールディングスIR・投資家情報、キリン環境の取り組み |
| 気候変動関連財務情報 | 気候変動財務情報開示タスクフォース(TCFD)に基づく情報を、2018年から毎年、環境報告書で開示しています。 |
| 環境情報開示基盤整備事業 | 環境省 環境情報開示基盤整備事業に参加し、ESG情報を開示しています。 |

講演等

| 日時 | 対象名 |
|-------------|--|
| 2019年2月14日 | 日英気候関連財務情報開示セミナー |
| 2019年2月25日 | 環境経営学会 |
| 2019年7月19日 | NSC「不確実性の時代における長期生き残り戦略とは～TCFDのシナリオ分析の実践～」 |
| 2019年8月23日 | 農林水産省「脱炭素化社会に向けた農林水産分野の基本的考え方」の具現化に向けた勉強会 |
| 2019年10月17日 | 日経BP総研フォーラムESGセミナー |
| 2019年10月31日 | 気候変動アクション日本サミット2019 |
| 2019年11月20日 | 環境省「脱炭素経営フォーラム」 |
| 2019年12月18日 | 岡三証券TCFDセミナー |
| 2019年12月20日 | 金融庁 シンポジウム「TCFDを巡る企業と投資家の対話のあり方 ～気候リスク及び機会に応じた企業戦略とその開示の観点から～」 |

外部出版物など

| 対象名 | 開示内容 |
|--|--|
| 一般社団法人生命保険協会 「はじめての気候変動対応ハンドブック」 | TCFD開示事例 🌐 https://www.seiho.or.jp/info/news/2019/pdf/20191115_1.pdf |
| 環境省 「TCFDを活用した経営戦略立案のススメ～気候関連リスク・機会を織り込むシナリオ分析実践ガイド～ver2.0」 | シナリオ分析開示事例 🌐 http://www.env.go.jp/policy/policy/tcfd/TCFDguide_ver2_0_J.pdf |
| 農林水産省 「環境のための農山漁村×SDGs ビジネスモデル ヒント集Ver2」 | シャトー・メルシャンブドウ畑での生態系調査・植生再生活動 🌐 https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/kankyo/200401.html |
| 農林水産省 「令和元年度 食料・農業・農村白書」 | 「生物多様性に配慮したワイン用ぶどうの栽培」 🌐 https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r1/zenbun.html |
| 環境省 生物多様性民間参画 事例集 | リスク・機会の特定 🌐 http://www.biodic.go.jp/biodiversity/private_participation/guideline/jireisyu.pdf |

GRI内容索引

本報告書はGRIスタンダードの以下の開示事項を参照しています。

| GRI内容索引 スタンダード | 開示事項 | ページ番号またはURL (日本語版) |
|----------------------------|---|--|
| 一般開示事項 | | |
| GRI 102: 一般開示事項 2016 | 102-1 組織の名称 | ページ5 |
| | 102-2 活動、ブランド、製品、サービス | ページ5 https://www.kirinholdings.co.jp/company/business/index.html |
| | 102-3 本社の所在地 | ページ5 |
| | 102-4 事業所の所在地 | ページ5 https://www.kirinholdings.co.jp/company/organization/index.html |
| | 102-5 所有形態および法人格 | ページ5 |
| | 102-6 参入市場 | ページ5 https://www.kirinholdings.co.jp/irinfo/finance/segment.html https://www.kirinholdings.co.jp/irinfo/private/global.html |
| | 102-7 組織の規模 | ページ5 ESGデータ集 プロフィール(https://www.kirinholdings.co.jp/csv/esg_gri/esg.html) https://www.kirinholdings.co.jp/company/organization/index.html |
| | 102-8 従業員およびその他の労働者に関する情報 | ページ5 ESGデータ集 プロフィール、従業員(https://www.kirinholdings.co.jp/csv/esg_gri/esg.html) |
| | 102-9 サプライチェーン | ページ26, 36, 44, 60, 80 https://www.kirinholdings.co.jp/csv/procurement/csr.html |
| | 102-10 組織およびそのサプライチェーンに関する重大な変化 | KIRIN CSV REPORT 2020 [統合報告書] p.67 ESGデータ集 (注記) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/esg_gri/esg.html) |
| 102-11 予防原則または予防的アプローチ | ページ10, 87-89 キリングループ環境方針 (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/env/policies/vision.html) | |

| GRI内容索引 スタンダード | 開示事項 | ページ番号またはURL (日本語版) |
|----------------------------|--------------------------------------|--|
| GRI 102: 一般開示事項 2016 | 102-12 外部イニシアティブ | ページ84-85 https://www.kirinholdings.co.jp/csv/sustainability/gc.html https://www.kirinholdings.co.jp/csv/human_resources/diversity_women.html |
| | 102-13 団体の会員資格 | ページ84-85 |
| | 102-14 上級意思決定者の声明 | ページ4, 6 https://www.kirinholdings.co.jp/csv/purpose/story.html |
| | 102-15 重要なインパクト、リスク、機会 | ページ9, 18, 13-17, 22, 25, 27, 37, 41, 76 https://www.kirinholdings.co.jp/irinfo/policy/risks.html https://www.kirinholdings.co.jp/csv/materiality/ |
| | 102-16 価値観、理念、行動基準・規範 | ページ4, 75, 78, 80 https://www.kirinholdings.co.jp/company/philosophy/ https://www.kirinholdings.co.jp/csv/env/policies/vision.html https://www.kirinholdings.co.jp/csv/governance/compliance.html https://www.kirinholdings.co.jp/csv/procurement/csr.html |
| | 102-18 ガバナンス構造 | ページ75-78 https://www.kirinholdings.co.jp/irinfo/policy/management.html ESGデータ集 ガバナンス (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/esg_gri/esg.html) |
| | 102-19 権限移譲 | ページ75, 78 |
| | 102-20 経済、環境、社会項目に関する役員レベルの責任 | ページ75, 78 |
| | 102-21 経済、環境、社会項目に関するステークホルダーとの協議 | ページ83 https://www.kirinholdings.co.jp/irinfo/governance/governance.html https://www.kirinholdings.co.jp/irinfo/library/event/archive.html https://www.kirinholdings.co.jp/csv/sustainability/stakeholder.html |

| GRI内容索引 スタンダード | 開示事項 | ページ番号またはURL (日本語版) |
|----------------------------|--|--|
| GRI 102: 一般開示事項 2016 | 102-26 目的、価値観、戦略の設定における最高ガバナンス機関の役割 | ページ75, 78 CSVの推進体制 (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/sustainability/promotion_csv.html) 方針と体制 (環境) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/env/policies.html) |
| | 102-27 最高ガバナンス機関の集会的知見 | CSVの推進体制 (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/sustainability/promotion_csv.html) |
| | 102-29 経済、環境、社会へのインパクトの特定とマネジメント | ページ75, 76, 77, 9 CSVの推進体制 (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/sustainability/promotion_csv.html) ステークホルダーとの協働 (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/sustainability/stakeholder.html) 方針と体制 (環境) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/env/policies.html) |
| | 102-30 リスクマネジメント・プロセスの有効性 | ページ76, 77, 9 CSVの推進体制 (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/sustainability/promotion_csv.html) 方針と体制 (環境) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/env/policies.html) |
| | 102-31 経済、環境、社会項目のレビュー | ページ75, 76, 77, 9 CSVの推進体制 (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/sustainability/promotion_csv.html) |
| | 102-32 サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割 | 「キリングループ環境ビジョン2050」はキリンホールディングス取締役会で承認されています。 キリングループ環境報告書の全体的な内容はキリンホールディングス株式会社常務執行役員 (CSV戦略担当、グループ環境総括責任者) が監督しています。 CSVの推進体制 (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/sustainability/promotion_csv.html) 方針と体制 (環境) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/env/policies.html) |
| | 102-40 ステークホルダー・グループのリスト | ページ82-85 https://www.kirinholdings.co.jp/csv/sustainability/stakeholder.html |
| | 102-41 団体交渉協定 | ESGデータ集 従業員 (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/esg_gri/esg.html) |
| | 102-42 ステークホルダーの特定および選定 | ページ82-85 https://www.kirinholdings.co.jp/csv/sustainability/stakeholder.html |

115

| GRI内容索引 スタンダード | 開示事項 | ページ番号またはURL (日本語版) |
|----------------------------|--------------------------------------|--|
| GRI 102: 一般開示事項 2016 | 102-43 ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ方法 | ページ82-85 https://www.kirinholdings.co.jp/csv/sustainability/stakeholder.html https://www.kirinholdings.co.jp/csv/commitment/ https://www.kirinholdings.co.jp/csv/alcohol/policies.html https://www.kirinholdings.co.jp/csv/human_rights/policies.html |
| | 102-44 提起された重要な項目および懸念 | ページ82-83 https://www.kirinholdings.co.jp/csv/sustainability/stakeholder.html https://www.kirinholdings.co.jp/csv/human_rights/policies.html |
| | 102-45 連結財務諸表の対象になっている事業体 | ページ3 https://www.kirinholdings.co.jp/company/organization/index.html |
| | 102-46 報告書の内容および項目の該当範囲の確定 | ページ8-11, 18, 19, 20 私たちのCSVコミットメント (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/commitment/) 持続的成長のための経営諸課題 (グループ・マテリアリティ・マトリックス) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/materiality/) |
| | 102-47 マテリアルな項目のリスト | ページ8-11, 18, 19, 20 私たちのCSVコミットメント (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/commitment/) 持続的成長のための経営諸課題 (グループ・マテリアリティ・マトリックス) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/materiality/) |
| | 102-48 情報の再記述 | 前年度報告に関する訂正は無し。 事業売却等による集計範囲の変更はページ91 |
| | 102-49 報告における変更 | ページ83 ESGデータ集 注記 (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/esg_gri/esg.html) |
| | 102-50 報告期間 | ページ3 |
| | 102-51 前回発行した報告書の日付 | 2019年7月 |
| | 102-52 報告サイクル | 年次 |
| | 102-53 報告書に関する質問の窓口 | 裏表紙 |

| GRI内容索引 スタンダード | 開示事項 | ページ番号またはURL (日本語版) |
|------------------------------|---|---|
| GRI 102: 一般開示事項 2016 | 102-54 GRIスタンダードに準拠した報告であること の主張 | ページ3 |
| | 102-55 GRI内容索引 | ページ114-116 https://www.kirinholdings.co.jp/csv/esg_gri/gri.html |
| | 102-56 外部保証 | ページ120 |
| マテリアルな項目 | | |
| 生物資源 | | |
| GRI 103: マネジメン 手法 2016 | 103-1 マテリアルな項目とその該当範囲の説明 | ページ8-9, 12-17, 18, 19, 26 |
| | 103-2 マネジメン手法とその要素 | ページ10-11, 12, 18-21, 28-35 |
| | 103-3 マネジメン手法の評価 | ページ16, 22, 25, 27 |
| GRI 304: 生物多様性 2016 | 304-2 活動、製品、サービスが生物多様性に与え る著しいインパクト | ページ28-35, 47 |
| | 304-3 生息地の保護・復元 | ページ28, 30, 31, 34, 35, |
| | 304-4 事業の影響を受ける地域に生息する IUCNレッドリストならびに国内保全種リ スト対象の生物種 | ページ30, 34, 35 |
| 水資源 | | |
| GRI 103: マネジメン 手法 2016 | 103-1 マテリアルな項目とその該当範囲の説明 | ページ8-9, 12-17, 18, 19, 36 |
| | 103-2 マネジメン手法とその要素 | ページ10-11, 12, 18-21, 38-42 |
| | 103-3 マネジメン手法の評価 | ページ16-17, 22, 25, 37 |
| GRI 303: 水と廃水 2018 | 303-1 共有資源としての水との関係 | ページ36, 37, 38-39, 41, 42 |
| | 303-2 排水関連影響の管理 | ページ36, 37, 39, 40 |
| | 303-3 取水 | ページ90, 92, 93, 94, 103 |

| GRI内容索引 スタンダード | 開示事項 | ページ番号またはURL (日本語版) |
|--------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| GRI 303: 水と廃水 2018 | 303-4 排水 | ページ90, 92, 93, 95, 101, 103 |
| | 303-5 水消費 | ページ37, 41, 43, 90, 92, 93, 94-95, 103 |
| 容器包装 | | |
| GRI 103: マネジメン 手法 2016 | 103-1 マテリアルな項目とその該当範囲の説明 | ページ8-9, 15, 18, 19, 44 |
| | 103-2 マネジメン手法とその要素 | ページ10-11, 12, 18-21, 46-57, 88, 89 |
| | 103-3 マネジメン手法の評価 | ページ16-17, 22, 25, 45 |
| GRI 301: 原材料 2016 | 301-1 使用原材料の重量または体積 | ページ93, 95, 45 |
| | 301-2 使用したリサイクル材料 | ページ46, 52-53, 58-59, 95-96, 103 |
| | 301-3 再生利用された製品と梱包材 | ページ54, 58-59, 96 |
| 気候変動 | | |
| GRI 103: マネジメン 手法 2016 | 103-1 マテリアルな項目とその該当範囲の説明 | ページ8-9, 12-17, 18, 19, 60 |
| | 103-2 マネジメン手法とその要素 | ページ10-11, 12, 18-21, 62-71 |
| | 103-3 マネジメン手法の評価 | ページ16-17, 22, 25, 61 |
| GRI 201: 経済パフォー マンス 2016 | 201-2 気候変動による財務上の影響、その他のリ スクと機会 | ページ12-19 |
| GRI 302: エネルギー 2016 | 302-1 組織内のエネルギー消費量 | ページ72, 73, 90, 93, 97, 22 |
| | 302-2 組織外のエネルギー消費量 | ページ100 |
| | 302-3 エネルギー原単位 | ページ103 |
| | 302-4 エネルギー消費量の削減 | ページ93, 97, 100 |
| | 302-5 製品およびサービスのエネルギー必要量の 削減 | ページ100 |

| GRI内容索引 スタンダード | 開示事項 | ページ番号またはURL (日本語版) |
|-------------------------------|--|--|
| GRI 305: 大気への排出 2016 | 305-1 直接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (Scope1) | ページ72, 90-91, 97, 98, 99 |
| | 305-2 間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (Scope2) | ページ72, 90-91, 98, 99, |
| | 305-3 その他の間接的な温室効果ガス (GHG) 排 出量 (Scope3) | ページ61, 72, 90-91, 98, 99 |
| | 305-4 温室効果ガス (GHG) 排出原単位 | ページ73, 96, 97, 103 |
| | 305-5 温室効果ガス (GHG) 排出量の削減 | ページ61, 65-66, 69, 99 |
| | 305-6 オゾン層破壊物質 (ODS) の排出量 | ページ101 |
| | 305-7 窒素酸化物 (NOx)、硫黄酸化物 (SOx)、 およびその他の重大な大気排出物 | ページ79, 93, 101, 102 |
| 廃棄物・汚染防止 | | |
| GRI 103: マネジメント 手法 2016 | 103-1 マテリアルな項目とその該当範囲の説明 | ページ8-9, 10, 15, 20, 18, 19, 26, 44, 79 |
| | 103-2 マネジメント手法とその要素 | ページ10-11, 18-21, 30, 46-57, 79, 88, 89 |
| | 103-3 マネジメント手法の評価 | ページ16, 22, 25, 27, 45, 101 |
| GRI 306: 廃棄物 2020 | 306-1 廃棄物の発生と重大な廃棄物関連の影響 | ページ26, 30, 44, 79 |
| | 306-2 重大な廃棄物関連の影響の管理 | ページ30, 45, 79 |
| | 306-3 発生した廃棄物 | ページ93, 101, 103 |
| | 306-4 処分から転換された廃棄物 | ページ57, 59, 93, 96, 101, 103 |
| | 306-5 処分に向けられた廃棄物 | ページ93, 101 |

| GRI内容索引 スタンダード | 開示事項 | ページ番号またはURL (日本語版) |
|--|--|---|
| GRI 307: 環境コンプライ アンス 2016 | 307-1 環境法規制の違反 | 当該年度中の違反は無し |
| サプライチェーン | | |
| GRI 103: マネジメント 手法 2016 | 103-1 マテリアルな項目とその該当範囲の説明 | ページ10, 20, 26, 36, 44, 60 |
| | 103-2 マネジメント手法とその要素 | ページ20, 21, 80, 82 |
| | 103-3 マネジメント手法の評価 | ページ23 |
| GRI 308: サプライヤーの 環境面のアセス メント 2016 | 308-2 サプライチェーンにおけるマイナスの環境イ ンパクトと実施した措置 | ページ16-18, 27, 29-35, 37, 41-42, 45, 46-51, 53, 61, 62, 65-66 |

TCFD勧告 推奨開示索引

| | 推奨開示 | ページ番号 |
|-----------|---|-------------------------------------|
| ガバナンス | a) 気候関連リスク・機会に関する取締役会の監視体制 | ページ12, 75, 77 |
| | b) 気候関連リスク・機会の評価・管理における経営者の役割 | ページ12, 75, 77 |
| 戦略 | a) 組織が特定した、短期・中期・長期の気候関連リスク・機会 | ページ12-15, 18 |
| | b) 気候関連リスク・機会が組織の事業、戦略、財務計画に及ぼす影響 | ページ12-18 |
| | c) 2℃以下のシナリオを含む様々な気候関連シナリオを考慮した上での、組織戦略のレジリエンス | ページ10, 12-19 |
| リスクマネジメント | a) 気候関連リスクを特定・評価するための組織のプロセス | ページ12, 76 |
| | b) 気候関連リスクを管理するための組織のプロセス | ページ12, 76-78 |
| | c) 気候関連リスクを特定・評価・管理するプロセスが、組織の総合的なリスク管理にどのように統合されているか | ページ12, 76-78 |
| 指標と目標 | a) 組織が自らの戦略とリスク管理プロセスに即して、気候関連リスク・機会を評価する際に用いる指標 | ページ12, 20-21, 61 |
| | b) スコープ1、スコープ2、および該当する場合はスコープ3のGHG排出量、および関連リスク | ページ61, 72-73, 96-99 |
| | c) 気候関連リスク・機会を管理するために組織が用いる目標、およびその目標に対する実績 | ページ10, 12, 20-22, 25, 61, 72-73, 99 |

CDSBフレームワーク対照表

| 報告要件 | | 環境報告書2020での対応 |
|--------|-----------------|--|
| REQ-01 | ガバナンス | ページ4, 6, 12, 75-78 |
| REQ-02 | 経営陣の環境方針、戦略及び目標 | ページ7, 9-22, 26, 36, 41, 44, 60, 82-85 |
| REQ-03 | リスク及び機会 | ページ12-19 |
| REQ-04 | 環境影響の発生源 | ページ26-35, 43, 58-59, 72-73, 90-103 |
| REQ-05 | 実績及び比較分析 | ページ22, 25, 27, 37, 45, 61 |
| REQ-06 | 見通し | ページ4, 6 |
| REQ-07 | 組織範囲 | ページ3, 90-92 |
| REQ-08 | 報告方針 | ページ3, 90-92, 114-121 使用規定は前年度から一貫している。 |
| REQ-09 | 報告期間 | ページ3 |
| REQ-10 | 修正再表示 | 前年度報告に関する訂正は無し。 事業売却等による集計範囲の変更はページ91。 |
| REQ-11 | 適合性 | ページ3, 9, 118 |
| REQ-12 | 保証 | CDSB枠組への適合性に関する第三者保証は受けていない。 なお、一部のGHG排出量については保証を受けている(ページ96-99, 122) |

SASB対照表

食品・飲料セクター／アルコール飲料産業

2018年10月版

サステナビリティ開示トピックと会計指標

| トピック | 会計指標 | 開示箇所 |
|---------------------------|--|---|
| エネルギー管理 | (1)総エネルギー消費量、(2)グリッド電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合※a | P.93, P.97 |
| ウォーター管理 | (1)総取水量、(2)水の総消費量、それぞれの水ストレスが「高い」「極めて高い」地域の割合※b | P.37, P.41, P.43, P.94-95 |
| | ウォーター管理上のリスクの説明、およびリスク軽減に向けた戦略と取り組みに関する議論 | P.10-11, P.13-19, P.36-43 |
| 責任ある飲酒とマーケティング | 法定飲酒可能年齢以上の個人に行われた広告のインプレッションの割合※c | |
| | 業界または規制によるラベル表示／マーケティング規約に対する違反の件数※d | ESGデータ集(社会、お客様) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/esg_gri/esg.html) |
| | マーケティングおよび／またはラベル表示慣行に関連する法的措置による金銭的損失の総額※e | ESGデータ集(社会、お客様) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/esg_gri/esg.html) |
| | 責任ある飲酒を推進する取り組みについての説明 | 酒類メーカーとしての責任(私たちのCSVコミットメント) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/commitment/index.html#sect01) 酒類メーカーとしての責任(方針と体制) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/alcohol/policies.html) |
| 包装のライフサイクル管理 | (1)包装容器の総重量、(2)リサイクルおよび／または再生可能資材から作られた割合、(3)リサイクル可能、再利用可能、および／または堆肥化可能な割合※f | P.22, P.53, P.57-59, P.95-96 |
| | 包装容器のライフサイクル全体における環境負荷低減戦略の議論 | P.10-11, P.14-15, P.18-19, P.44-59 |
| 原材料のサプライチェーンにおける環境・社会への影響 | サプライヤーの社会・環境責任監査の(1)不適合率、(2) (a) 重大な不適合および(b) 軽微な不適合に対する是正処置率※g | CSR調達推進に向けた取り組み (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/procurement/promotion.html) ESGデータ集(社会、サプライヤー) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/esg_gri/esg) |
| 原材料調達 | 水ストレスが「高い」「極めて高い」地域から調達した飲料原材料の割合※h | P.13-14, P.41 |
| | 最も重要な飲料原材料のリスト、および環境・社会的配慮による調達リスクの説明 | P.13-14, P.16-19, P.26-28, P.31-35, P.38, P.41-42 |

活動指標

| 活動指標 | 開示箇所 |
|---------|--|
| 販売容量※i | P.93 |
| 生産拠点数※j | グループ会社一覧 (https://www.kirinholdings.co.jp/company/organization/) P.41 |
| 総走行距離※k | P.98 |

※a グリッド電力と再生可能エネルギーの割合は使用量から推計可能。
 ※b 水の総消費量は(用水使用量-排水量)で推計可能。国別の水ストレスは開示しているが、総取水量と総水消費量に対する水ストレス地域の割合は開示していない。
 ※c 開示していない。
 ※d 酒類についてのみ開示している。
 ※e 金銭的損失額は開示していない。また、酒類についての一部違反案件は注記に参照URLを記載している。
 ※f リサイクル素材の含有量割合は一部容器のみ開示している。
 ※g サプライヤーのセルフアセスメント実施率は開示しているが、不適合の割合は開示していない。不適合があった場合は、是正依頼を行っている。
 ※h 割合は開示していないが、原料別・国別水使用量は開示している。また、重要な飲料原材料である農産物の水リスクを含む、シナリオ分析結果を開示している。
 ※i 販売容量は開示していないが、製品生産量は開示している。
 ※j 主要な製造拠点数を開示している。
 ※k 総走行距離は開示していないが、国内のみについて、「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」の特定荷主の報告対象範囲内での貨物輸送量(=貨物重量×輸送距離)は開示している。

サステナビリティ開示トピックと会計指標

| トピック | 会計指標 | コード | 開示箇所 |
|---------------------------|--|--------------|---|
| 車両燃料マネジメント | 車両燃料消費量、再生可能エネルギーの割合 ^{*a} | FB-NB-110a.1 | P.97, P.98 |
| エネルギーマネジメント | (1)操業エネルギー消費量、(2)グリッド電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合 ^{*b} | FB-NB-130a.1 | P.68, P.93, P.97 |
| ウォーターマネジメント | (1)総取水量、(2)水の総消費量、それぞれの水ストレスが「高い」「極めて高い」地域の割合 ^{*c} | FB-NB-140a.1 | P.37, P.41, P.43, P.94-95 |
| | ウォーターマネジメント上のリスクの説明、およびリスク軽減に向けた戦略と取り組みに関する議論 | FB-NB-140a.2 | P.10-11, P.13-19, P.36-43 |
| 健康と栄養 | (1)ゼロカロリー・低カロリー、(2)無糖、(3)人工甘味料を含む飲料、それぞれの収入 ^{*d} | FB-NB-260a.1 | ESGデータ集(社会、お客様) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/esg_gri/esg.html) |
| | 消費者の栄養や健康上の懸念に関連する製品や原材料を特定し、管理するためのプロセスに関する議論 ^{*e} | FB-NB-260a.2 | CSVコミットメント(健康・未病領域におけるセルフケア支援) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/commitment/index.html#sect02_01) |
| 製品のラベル表示とマーケティング | (1)子ども向け、(2)食事にに関するガイドラインに適合した商品を宣伝する子ども向け項目のインプレッションの割合 ^{*f} | FB-NB-270a.1 | |
| | (1)遺伝子組み換え作物(GMO)、(2)遺伝子組み換えでない(non-GMO)と表示された製品からの収入 ^{*g} | FB-NB-270a.2 | |
| | 業界または規制によるラベル表示／マーケティング規約に対する違反の件数 ^{*h} | FB-NB-270a.3 | ESGデータ集(社会、お客様) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/esg_gri/esg.html) |
| | マーケティングおよび／またはラベル表示慣行に関連する法的措置による金銭的損失の総額 ^{*i} | FB-NB-270a.4 | ESGデータ集(社会、お客様) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/esg_gri/esg.html) |
| 包装のライフサイクルマネジメント | (1)包装容器の総重量、(2)リサイクルおよび／または再生可能資材から作られた割合、(3)リサイクル可能、再利用可能、および／または堆肥化可能な割合 | FB-AB-410a.1 | P.22, P.53, P.57-59, P.95-96 |
| | 包装容器のライフサイクル全体における環境負荷低減戦略の議論 | FB-AB-410a.2 | P.10-11, P.14-15, P.18-19, P.44-59 |
| 原材料のサプライチェーンにおける環境・社会への影響 | サプライヤーの社会・環境責任監査の(1)不適合率、(2)(a)重大な不適合および(b)軽微な不適合に対する是正処置率 ^{*j} | FB-NB-430a.1 | CSR調達推進に向けた取り組み (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/procurement/promotion.html) ESGデータ集(社会、サプライヤー) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/esg_gri/esg) |
| 原材料調達 | 水ストレスが「高い」「極めて高い」地域から調達した飲料原材料の割合 ^{*k} | FB-NB-440a.1 | P.13-14, P.41 |
| | 最重要な飲料原材料のリスト、および環境・社会的配慮による調達リスクの説明 | FB-NB-440a.2 | P.13-14, P.16-19, P.26-28, P.31-35, P.38, P.41-42 |

活動指標

| 活動指標 | コード | 開示箇所 |
|---------------------|-------------|--|
| 販売容量 ^{*l} | FB-NB-000.A | P.93 |
| 生産拠点数 ^{*m} | FB-NB-000.B | グループ会社一覧 (https://www.kirinholdings.co.jp/company/organization/) P.41 |
| 総走行距離 ^{*n} | FB-NB-000.C | P.98 |

^{*a} エネルギー種別の燃料消費量と、荷主としての輸送に伴うCO2排出量は開示しているが、車両燃料消費量は開示していない。
^{*b} エネルギー種別の消費量の総量と工場からのGHG排出量は開示しているが、操業エネルギー消費量は開示していない。一部工場のデータ、購入電力量と再生可能電力量は開示している。
^{*c} 水の総消費量は(用水使用量-排水量)で推計可能。国別の水ストレスは開示しているが、総取水量と総水消費量に対する水ストレス地域の割合は開示していない。
^{*d} 無糖製品の売上高は開示していないが、低糖製品・低脂肪製品の売上高は開示している。人工甘味料を含む飲料の売上高は開示していない。
^{*e} コミットメントは開示しているが、具体的な管理プロセスは開示していない。
^{*f} 開示していない。
^{*g} 開示していない。
^{*h} 酒類についてのみ開示している。
^{*i} 金銭的損失額は開示していない。また、酒類についての一部違反案件は注記に参照URLを記載している。
^{*j} サプライヤーのセルフアセスメント実施率は開示しているが、不適合の割合は開示していない。不適合があった場合は、是正依頼を行っている。
^{*k} 割合は開示していないが、原料別・国別水使用量は開示している。また、重要な飲料原材料である農産物の水リスクを含む、シナリオ分析結果を開示している。
^{*l} 販売容量は開示していないが、製品生産量は開示している。
^{*m} 主要な製造拠点数を開示している。
^{*n} 総走行距離は開示していないが、国内のみについて、「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」の特定荷主の報告対象範囲内での貨物輸送量(=貨物重量×輸送距離)は開示している。

環境報告ガイドライン2018年版 (環境省) 報告事項索引

| 章 | 節 | 報告事項 | ページ番号 |
|----------------|------------------------|---------------------------------|--|
| 第1章 環境報告の基礎情報 | 1. 環境報告の基本的要件 | 報告対象組織 | ページ3 |
| | | 報告対象期間 | ページ3 |
| | | 基準・ガイドライン等 | ページ3 |
| | | 環境報告の全体像 | ページ3 |
| | 2. 主な実績評価指数の推移 | 主な実績評価指数の推移 | ページ22 |
| 第2章 環境報告の記載事項 | 1. 経営責任者のコミットメント | 重要な環境課題への対応に関する経営責任者のコミットメント | ページ4, 6 |
| | | | |
| | 2. ガバナンス | 事業者のガバナンス体制 | ページ12, 75-78 |
| | | 重要な環境課題の管理責任者 | ページ12, 75-78 |
| | | 重要な環境課題の管理における取締役会及び経営業務執行組織の役割 | ページ12, 75-78 |
| | 3. ステークホルダーエンゲージメントの状況 | ステークホルダーへの対応方針 | ページ82 |
| | | 実施したステークホルダーエンゲージメントの概要 | ページ82-85 |
| | 4. リスクマネジメント | リスクの特定、評価及び対応方法 | ページ9, 12-19, 76-78 |
| | | 上記の方法の全社的なリスクマネジメントにおける位置付け | ページ12, 76-78 |
| | 5. ビジネスモデル | 事業者のビジネスモデル | ページ5, 7 |
| | 6. バリューチェーンマネジメント | バリューチェーンの概要 | ページ10, 26, 36, 44, 60 |
| | | グリーン調達の方針、目標・実績 | ページ10, 11, 19, 20-22, 25, 27, 29, 32, 33, 45, 47, 80, 87, 88 |
| 環境配慮製品・サービスの状況 | | ページ32, 33, 44-59, 89 | |

| 章 | 節 | 報告事項 | ページ番号 |
|--------------------------------------|-----------------|------------------------|--|
| 第2章 環境報告の記載事項 | 7. 長期ビジョン | 長期ビジョン | ページ10, 11 |
| | | 長期ビジョンの設定期間 | ページ10, 11 |
| | | その期間を選択した理由 | ページ9 |
| | 8. 戦略 | 持続可能な社会の実現に向けた事業者の事業戦略 | ページ12-20 |
| | 9. 重要な環境課題の特定方法 | 事業者が重要な環境課題を特定した際の手順 | ページ9 |
| | | 特定した重要な環境課題のリスト | ページ10, 11, 18-20 |
| | | 特定した環境課題を重要であると判断した理由 | ページ9 |
| | | 重要な環境課題のパウンダリー | ページ10, 11 (バリューチェーンから社会全体を対象を拡大) |
| | 10. 事業者の重要な環境課題 | 取組方針・行動計画 | ページ10, 11, 16-20 |
| | | 実績評価指標による取組目標と取組実績 | ページ10, 11, 19-22, 27, 37, 43, 45, 58, 59, 61, 72, 73, 94-103 |
| | | 実績評価指標の算定方法 | ページ90 |
| | | 実績評価指標の集計範囲 | ページ90-92 |
| リスク・機会による財務的影響が大きい場合は、それらの影響額と算定方法 | | ページ13-15 | |
| 報告事項に独立した第三者による保証が付与されている場合は、その保証報告書 | | ページ122 | |



独立した第三者保証報告書

2020年10月9日

キリンホールディングス株式会社
代表取締役社長 磯崎 功典 殿

KPMG あずさサステナビリティ株式会社
東京都千代田区大手町1丁目9番5号

代表取締役

齋藤 和彦

当社は、キリンホールディングス株式会社(以下、「会社」という。)からの委嘱に基づき、会社が作成したキリングループ環境報告書 2020(以下、「環境報告書」という。)に記載されている2019年1月1日から2019年12月31日までを対象とした^①マークの付されているキリングループのスコープ1 排出量及びスコープ2 排出量、キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社、メルシャン株式会社及び小岩井乳業株式会社のスコープ3 排出量(以下、「指標」という。)に対して限定的保証業務を実施した。

会社の責任

会社が定めた指標の算定・報告基準(以下、「会社の定める基準」という。環境報告書の99頁に記載。)に従って指標を算定し、表示する責任は会社にある。

当社の責任

当社の責任は、限定的保証業務を実施し、実施した手続に基づいて結論を表明することにある。当社は、国際監査・保証基準審議会(ISA)の国際保証業務基準(ISA)3000「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」及びISA3410「温室効果ガス情報に対する保証業務」に準拠して限定的保証業務を実施した。

本保証業務は限定的保証業務であり、主として環境報告書上の開示情報の作成に責任を有するもの等に対する質問、分析的手続等の保証手続を通じて実施され、合理的保証業務における手続と比べて、その種類は異なり、実施の程度は狭く、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。当社の実施した保証手続には以下の手続が含まれる。

- 環境報告書の作成・開示方針についての質問及び会社の定める基準の検討
- 指標に関する算定方法並びに内部統制の整備状況に関する質問
- 集計データに対する分析的手続の実施
- 会社の定める基準に従って指標が把握、集計、開示されているかについて、調査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施
- リスク分析に基づき選定したメルシャン株式会社藤沢工場に対する現地往査の代替的な手続としての質問及び証憑等の文書の間覧
- 指標の表示の妥当性に関する検討

結論

上述の保証手続の結果、環境報告書に記載されている指標が、すべての重要な点において、会社の定める基準に従って算定され、表示されていないと認められる事項は発見されなかった。

当社の独立性と品質管理

当社は、誠実性、客観性、職業的専門家としての能力と正当な注意、守秘義務及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく独立性及びその他の要件を含む、国際会計士倫理基準審議会の公表した「職業会計士の倫理規程」を遵守した。

当社は、国際品質管理基準第1号に準拠して、倫理要件、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の要件の遵守に関する文書化した方針と手続を含む、包括的な品質管理システムを維持している。

以上



幸せを運ぶ 聖獣麒麟

不履生蟲、不踐生草

(せいちゅうをふまず、せいそうをふまず)

吉事の前触れとされる聖獣「麒麟」は、地に足を下ろさず、虫を踏まず草を折らないといわれています。心優しい麒麟は、豊かな自然環境を次世代につなげていくキリングループのシンボルです。

麒麟の環境の取り組みは、下記のウェブサイトです。
随時更新しています。
<https://www.kirin.co.jp/csv/eco/>

